

埼玉昆虫談話会

寄世蛾記 No. 84



1997. M. Jinkubo

1997. Nov. 1.

「寄せ蛾記」84号 表紙の説明

◆ミヤマシジミ

普通種とされているミヤマシジミではあるが，埼玉県ではその棲息地は局限され，貴重な存在である．荒川流域，利根川流域，神流川流域のごく限られたコマツナギのある河川敷のみに棲息している．

初秋にヨモギの花やコマツナギの花が咲くころには，
個体数もやや多くなり，可憐な姿で吸蜜する姿を観察することができる．

神久保 美津夫

表紙

図 ： 神久保 美津夫

デザイン ： 小堀 文彦

・・・・・・・・・・

〔日本の音風景100選〕選外の虫の声の聞きどころ

牧林 功

・・・・・・・・・・

〔日本の音風景100選〕を選定した“日本の音風景検討会”は100選を発表するにあたって、
く残したい〔日本の音風景100選〕を選定するにあたって＞という標題で次のように意見を述
べている。

「地方自治体には、この100選を契機として、それぞれの地域に即したやりかたで音環境保
全の対策を展開していただきたい。この100件の音風景については、ぜひ大切に守り、将来に
残していただきたい。たまたま100件の中に該当するものがなくても、各地にはきっと〔残し
たい音風景〕があるはずであり、それを発見し、大切にする運動にも取組んでいただきたい。
環境庁には、この100選の音風景の状況やその地域の取組みについてホォローアップを行うと
ともに、同様の考え方による音環境保全対策が全国的に普及するように、情報提供や働きかけ
をしていただきたい」

埼玉昆虫談話会も〔日本の音風景100選〕の募集要綱を取り寄せたとき、当然このような展
開になるであろうと予測した。そこでこの機会に意見の調整をし、県内の虫の音のよいところ
はどこかを役員で討議した。その結果、5箇所ほど候補があがり、それらをすべて音風景100
選に応募した、そのうちの 하나가〔荒川押切河原の虫の声〕である。残念ながら選外となった
4箇所も、この機会に公表して各位に知っていただこうと思う。この小文を記すにあたり、江
村薫、巢瀬司、内田正吉、和田一郎各氏から懇切な御教示をえたことを書き添え感謝申し上げ
る。

〔渡良瀬遊水池のオオクサキリの声〕

北埼玉郡北川辺町柏戸先の渡良瀬川河口の土手で8月中旬から9月中旬にかけて、オオクサ
キリが非常に大きな声で鳴き始める。クサキリより遙かに大きな声で、しかもその声には周波
数の異なる2タイプが混ざっている。ひとつは「チャキチャキチャキ…」と聞こえるタイプで
毎秒14パルス。もうひとつは「シャシャシャ…」と聞こえるタイプで毎秒30パルスであるとい
う。特に後者は美しい。「蟬時雨という言葉があるが、オオクサキリしぐれとでも呼びたい感
じがする」と和田一郎氏は説明する。このオオクサキリは日が完全に暮れてから鳴き出し、早
朝未明まで鳴きつづける。鳴き方は連続して数分鳴き、しばらく休んでからまた鳴くというこ
とを繰り返す。

オオクサキリは非常に珍しい昆虫なので、若干の解説を欄外に別に記しておく。

オオクサキリのほか、渡良瀬川河口の土手では〔中川・加須低地帯〕で絶滅危倶種に指定さ
れているクツワムシが健在で、独特な「ガシャガシャガシャ……」という声で鳴いている。ま
たハタケノウマオイも多産し、ハヤシノウマオイと混棲しているので「スイツチョ」と「スイ

ーッション」の2種類の鳴き声を楽しめる。それに虫の声を聞く環境としては抜群で、遊水池を眺めながら土手の上に腰掛けてゆっくり耳を澄ますことができる。

他に確認された鳴く虫は次のとおり。クサキリ、ツユムシ、コバネササキリ・ウスイロササキリ、クビキリギス、エンマコオロギ、ツズレサセコオロギ、ハラオカメコオロギ、モリオカメコオロギ、タンボオカメコオロギ、ヒメコオロギ、ミツカドコオロギ、スズムシ、キンヒバリ、カンタン、アオマツムシ、マダラスズ、シバスズ（以上、和田一郎氏確認）。

オオクサキリ（図1）

井上尚武氏は1981年9月14日、那珂湊市阿字が浦町で今まで聞いたことのない虫の声を聞いた。そこで7匹を採集し、図鑑で調べたところオオクサキリらしいことがわかり、野沢登氏に標本写真を送って確認をとった。野沢氏もオオクサキリであると同定した。

井上尚武氏が明らかにした（井上1983a, 1983b）ところによると、オオクサキリは全体にクサキリより大きく、前頭頂はクサキリやヒメクサキリより突出がやや著しい、背面観ではやや扇形。生体では前頭頂の先端、大あご、小あごひげの先、下唇ひげの先は黄色い。また大あご先端は黒色。緑色型、褐色型の2型があるが、全体的に他の2種にくらべ色が淡く、透きとおった感じがする。発音器はクサキリより全体に太く力強いという。

オオクサキリは加藤正世氏が東京・石神井産の標本をもって、オウクサキリとしたことにはじまる（1941）。その後、茨城県大洗海岸（古川、1965）が記録され・松浦、野沢（1976）は関東に局地的に分布すると記した。

日浦（1978）はオオクサキリを *Homorocoryphus dubius* とし、その分布地を本州南岸、四国、東洋熱帯としたが、それはヒサゴクサキリと混同したため、このことは直翅類研究グループ

（1983）により指摘された。従って、オオクサキリの分布地から四国ははずすべきで、日本産昆虫総目録（1989）がオオクサキリの分布地として相変らず“四国”をあげているのは誤りである。なお、東南アジア産のものと同じか否かは検討を必要とする。

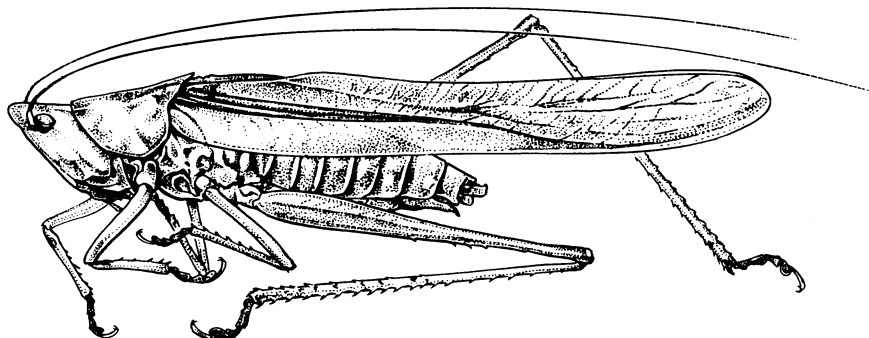


図1 オオクサキリ♂（小堀 文彦 画）

オオクサキリの生息地は、井上尚武氏やその他の人の精力的な調査で次つぎに明らかになった。現在判明している生息地は以下の通り。

茨城県勝田市長砂

茨城県那珂湊市阿字が浦

茨城県東茨城郡大洗町大洗海岸 ----- 開発が進み絶滅

茨城県東茨城郡大洗町夏海（なつみ）海岸

茨城県鹿島郡鹿島町下津（おりつ）

茨城県稲敷郡東（あずま）村本新（もとしん）

茨城県稲敷郡桜川村浮島

茨城県竜ヶ崎市半田

千葉県印旛郡栄町須賀新田

千葉県印旛郡印西町木下（きおろし）

千葉県成田市竜台

東京都板橋区井上2丁目荒川土手、戸田橋（'69年松浦一郎氏確認） ----- 絶滅

東京都府中市南町6丁目多摩川河畔（'58年松浦一郎氏確認） ----- 絶滅

群馬県邑楽郡板倉町渡良瀬遊水池（'86年小林正明氏確認）

栃木県下都賀郡藤岡町渡良瀬遊水池（'88年園部力雄氏確認）

埼玉県北埼玉郡北川辺町柏戸先（和田，1996）

新潟県西蒲原郡巻町越前浜

（以上、井上1983bその他による）

〔阿須運動公園のキンヒバリの声〕

飯能市阿須の入間川沿いのアシ原で、6月から7月にかけて、まだあたりが明るい17時頃からリッリッリッリーと澄んだ美しい声で鳴きはじめ、日が暮れる頃にはアシ原中その声で埋め尽くされる。特によく聞こえる場所は阿須運動公園内のアシ原である。

キンヒバリは関東以南に分布するクサヒバリ科の暖地性昆虫で、埼玉県動物誌(1978)には、「入間市元加治付近の入間川流域にわずかながら生息している」と記されている。そのうち、所沢市三ヶ島（牧林，1984）、北本市石戸宿（内田正吉，1995）などにも多産することがわかった。しかし、特に多いのが飯能市阿須である（和田一郎氏確認）。生息地はアシやマコモの生えた草むら。1化性で幼虫越冬。

なお、キンヒバリとともに、クマスズムシも生息する。この種の個体数はそれほど多くないが、確実に生息する（和田一郎氏確認）。この種もキンヒバリ同様、暖地性で関東以南に分布する。埼玉県動物誌（1978）には未記録。疎林の下草や乾いたまばらな草地に住み、8月から10月にかけてギューギューグーグーと強くふるわせて鳴く。卵越冬。このように、この地は非常に珍しい鳴く虫の声が聞かれる場所である。

〔新座市新塚のマツムシの声〕

新座市栄緑道北側の陸上自衛隊朝霞演習地内の草原。ここではマツムシが多産し、8月から11月にかけて「チンチロリン、チンチロリン」「チツチロリッ」と風情ある鳴き声が聞かれる（巢瀬司氏確認）。埼玉県動物誌（1978）では本庄市〔利根川河原〕のみから記録されている。かつてはどこにでも生息していたものと思われるが、今では非常に珍しくなっており、特に市街地に隣接する場所としてこの地を注目したい。

ちなみに、マツムシは東北部から九州にかけて分布し、奄美諸島以南のものは別亜種タイワンマツムシとされる。ススキ群落地のような場所で、その根際に生息する。江南町押切の荒川の河川敷ではやや湿ったススキ群落にマツムシが生息し、やや深く乾いた草むらにスズムシ

が生息するというように微妙に住み分けている。卵越冬。

なお、この演習地内には湿地性の植物、クサレダマが生育している（巢瀬司氏確認）。このことは自然度の高い草地であることを伺わせる。

〔城峰山のセミの声〕

秩父郡吉田町の城峰山における城峰神社から山頂一帯のセミの声は素晴らしい。ここにはコエゾゼミ、アカエゾゼミ、エゾゼミの3種のエゾゼミ類が生息し（林 正美, 1988）、近年においてもエゾゼミの個体数は多い（江村薫氏確認）。里に近い山で3種のエゾゼミ類が生息する地域として注目に値する。

エゾゼミ類の鳴き声の聞き分けは難しいが、慣れると区別がつくようになる。エゾゼミ属3種はいずれも音楽的でないジーという連続音であるが、以下のように微妙に異なる。コエゾゼミ、アカエゾゼミはジーという連続音なのだが、コエゾゼミの場合、時に間奏音がジジッと断続的に入る。アカエゾゼミは連続音のみで断続音が入らないのが特徴。エゾゼミはギューという連続音で、終奏音は断続的。鳴き声の盛期は7月下旬から8月下旬にかけて。時間帯としては朝から夕方まで。

この3種は基本的に下向きに止まって鳴く。エゾゼミは幹で、コエゾゼミは梢や細枝で、アカエゾゼミは梢や葉の茂みの上で鳴く、というように若干ニッチを変えているようだ。アカエゾゼミは自然度の高い落葉広葉樹林に、コエゾゼミはブナ林に多いが針葉樹林にも生息し、エゾゼミはスギ、ヒノキなどの針葉樹に多いというように生息場所にもいくらか違いがある。

みの形態的な特徴として、コエゾゼミは腹弁が第4腹板を超え、エゾゼミは腹弁が第3腹板に達し、アカエゾゼミは腹弁が第3腹板に届かない。このように腹弁の長さが区別点となる。

また、神社から山頂にかけて自然林が残り、多様な動植物が見られることも付け加えておきたい。

文 献

- 林 正美 (1988) 埼玉県城峯山のエゾゼミ類. *CICADA* (7) pp.47-48.
 日浦 勇ほか (1978) 鳴く虫第5回特別展〔鳴く虫〕解説. 大阪市立自然史博物館.
 井上尚武 (1983a) オオクサキリ観察記1. ぱったりぎす (52) pp.1554-1558.
 井上尚武 (1984b) オオクサキリ観察記2. ぱったりぎす (56) pp.1730-1740.
 石原 保 (1961) 半翅目セミ科. 日本昆虫分類図説 第1集第2部. 北隆館.
 九大農昆・野生研 (1989) 日本産昆虫総目録〔1〕.
 牧林 功 (1984) その他の昆虫. 所沢市三ヶ島の昆虫類調査報告pp.25-27. 寄せ蛾記Suppl. 2.
 宮武頼夫・加納康嗣著 (1922) 検索入門セミ・バッタ. 保育社.
 日本の音風景検討会 (1996) 残したい「日本の音風景100選」の選定にあたって. 残したい〔日本の音風景100選〕資料集pp.11-16. 環境庁.
 直翅類研究グループ (1983) 日本の直翅類. 大阪市立自然史博物館収蔵目録 第15集.
 内田正吉 (1995) 北本市の直翅系昆虫. 北本市の動植物誌pp.269-278. 北本市教育委員会.
 和田一郎 (1996) 埼玉県の直翅類について. 寄せ蛾記 (79) pp.2102-2112.
 山崎柄根 (1978) 埼玉の直翅類. 埼玉県動物誌. 埼玉県教育委員会.

.....

朝霞市内でウスイロコノマチョウを採集

田中 雅照

.....

埼玉県朝霞市において、ウスイロコノマチョウが採集されたので報告する。

採集日時 1997年9月4日 午前8時20分ごろ
採集場所 埼玉県朝霞市幸町3-13-65 朝霞高校内
採集者 川村 昂平

朝霞高校1階教室、中庭に面した窓のガラス戸と網戸の間に入り込んでいた蝶を採集者が捕獲後、筆者のもとに持参した。前翅表の小白斑がそれを取りまく黒斑の中心に位置することから、ウスイロコノマチョウと同定した。なお、雌雄は不明である。



写真 朝霞市で1997年9月4日に採集されたウスイロコノマと採集者

(たなか まさてる 〒351 朝霞市幸町3-13-65 朝霞高等学校)

.....

身近に見られる東洋熱帯の蝶 (1)

塘 久夫

.....

仕事で時々東南アジアに行く機会があります。仕事の合間をぬっての蝶の観察ですから、都市近郊で見られる普通種ばかりで、発表の価値があるほどの珍しい記録があるわけではありませんが、身近に見られる東洋熱帯の蝶を紹介する意味で、最近の観察記録を報告します。観察地はいずれも大都市近郊です。最近は多くの方が海外旅行に出かける機会も多いと思いますので、旅行や出張のついでに、半日か一日の余裕があれば、手軽に出かけられる観察地を旅行ガイド風に紹介してみたいとも思います。

1. マレーシア

マレーシアの蝶については大津昌昭氏著の「アカエリトリバネチョウ」1)という本で詳しく紹介されています。それによるとマレー半島全体で見られる蝶は 616種、首都クアラルンプールの周辺だけでも559種の蝶が見られ、クアラルンプールのすぐ近くでもこの国の国蝶「アカエリトリバネアゲハ」が多数見られると書かれていますが、この本が発行されたのは1981年、今から15年も前のことです。この間、マレーシアに限らず、東南アジアの経済発展は目を見張る勢いで、今やクアラルンプールなどは東京と何ら変わる事のない、近代的な大都会へと変貌しました。その分自然環境の変化は激しいものがあつたはずで、蝶にとっての棲息環境は著しく悪化したと考えてよさそうです。私の数少ない観察例から言えば、クアラルンプール周辺では、もはやアカエリトリバネアゲハに出会うことは至難の技と思えます。

1-1 ゴンバからゲンチンシンパ

ゲンチンシンパはクアラルンプールから北へ約40km、標高400m~600mくらいの低地森林地帯で、有名な避暑地のゲンチンハイランド(標高1700m)の手前の山麓に当たります。前述の大津氏の本ではアカエリトリバネアゲハやヘレナキシタアゲハがたくさん見られる、と記述された場所ですが、残念ながら現在では両種ともこの地で見るとは大変むずかしいと思います。そうは言っても蝶の種類と数は素晴らしく多く、数多くの熱帯の蝶に出会うことの出来る場所です。手軽に行ける割には絶好の観察地だと思います。ゲンチンハイランドまではクアラルンプールから直通の高速道路も通っていますが、蝶の観察には高速道路には乗らずに、ゴンバ川に沿って一般道路(旧道)を遡る方が適しています。クアラルンプールの市街地を抜けるとすぐに田舎の景色が広がり、道路ぞいに高床式の伝統的なマレー人の民家が点在し、遠景には手つかずの密林らしきものも見えます。民家の回りにはバナナやココヤシの木が植えられパイナップルや野菜の畑も広がっています。生け垣のブーゲンビリアやハイビスカスの花にはツマベニチョウやウスキシロチョウが集まっていますし、草むらにはスジグロトガリシロチョウ(ヤ

エヤマシロチョウ) やホリイコシジミが群れています。ゴンバの部落を抜ければゲンチンシンパへの山道へと入ります。ここからはもう民家は全く無くなり、道はうっそうとした密林の中を縫うように登っていきます。道の両側の半日陰になった草むらや林縁には蝶の種類も数も大変多くなります。数が多いのはタイワンシロチョウ、ニセキチョウ、コウラナミジャノメなどで、どこにでもウジャウジャと飛んでいます。道端のランタナの花にはクロタテハモドキが多く、シロオビアゲハやオビモンアゲハも飛来します。林縁ギリギリのややうす暗い場所にはハレギチョウや各種のセセリチョウ、とうまく棲み分けているようです。少し開けた場所に出るとマダラの類も多く、シロモンルリマダラ、ツマムラサキマダラ、タイワンアサギマダラ、スジグロシロマダラなどが次々とあらわれます。ルリマダラ類は目の覚めるような美しい翅を持っていますが、採集して胸を押さえると腹を曲げ、腹端から黄色い毛を出して刺すようなまねをします。熱帯は面積あたりの種類数が多いのが特長で、次々と色々な蝶が出てくるので面白くてあちこちを走り回りますが、あまりの暑さに全身グショ濡れ。汗が目に入り撮影も採集も思うほどには効率は上がりません。蝶を追うのに疲れて木陰で一休みすると、道端に野生のドリアンが落ちていたりして驚きます。初めてこの場所を訪れた時(記録①)には、道路沿いを歩いてばかりいたので典型的なオープンランドの蝶しか見られませんでした。1年後に再訪した2回目の時(記録②)には溪流ぞいのうす暗い小径や、樹林の奥深くへ続く細い枝道に入ってみました。果せるかなこういう少し暗い場所には開けた場所とは全く違う蝶たちがたくさん見られました。金属光沢に輝く紫色の美しいセンタウルスムラサキシジミやアマミウラナミシジミ近縁の各種のウラナミシジミ類、シャマキマダラルリツバメと言ったシジミチョウの仲間が多いようです。オオイナズマやヘリオビナズマも見られます。溪流ぞいを歩くとオビクジャクアゲハやウスイロネツタイヒョウモンが吸水をしていました。オナガタテハの吸水は面白く、濡れた岩の上に止まって、すぐにチョンチョンと2〜3歩、跳ねるように前進してから静止します。蝶と言うよりむしろ小鳥か、すばしこいクモのような動きでした。

[記録] 学名を付したものの和名は仮称

*印を付したものは採集記録のあるもの

無印は目撃記録のみ

数字は目撃数

① 1995-1-22 ゲンチンシンパ 晴

- *シロオビアゲハ12 *シロオビモンキアゲハ(*Papilio Nephelus*) 2 ミカドアゲハ 8
- モンキアゲハ 2 ウスキシロチョウ 多 *クロテンシロチョウ 4
- *クモガタシロチョウ(*Appias indra*) 1 *タイワンキチョウ 多
- *ニセキチョウ(*Eurema simulatrix*) 多 スジグロトガリシロチョウ(*Appias libythea*) 多
- *シロウラナミシジミ(*Jamides alecto*) 多 *ホリイコシジミ 多
- *シロモンルリマダラ(*Euploea diocletianus*) 4 *スジグロシロマダラ(*Salatura melanippus*) 8
- *タイワンアサギマダラ 1 *ツマムラサキマダラ 2 *アオタテハモドキ 3
- *クロタテハモドキ(*Junonia iphita*) 多 *ハレギチョウ(*Cethosia penthesilea*) 1
- *モニナイナズマ(*Tanaecia monina*) 1 メスアカムラサキ 4 リュウキュウミスジ 多
- *コウラナミジャノメ(*Ypthima baldus*) 多 *ヒメヒトツメジャノメ(*Mycalesis perseus*) 1

*チャバネセセリ 多 ネットタイアカセセリ 3 ホシボシアカネセセリ(学名不詳) 2

② 1996-3-23 ゲンチンシンパ 晴時々曇

オビクジャクアゲハ(*Papilio palinurus*) 4 シロオビアゲハ 6 *ナガサキアゲハ 1
 *オビモンアゲハ(*Papilio demolion*) 1 モンキアゲハ 4 *キチョウ 多
 *ウスキシロチョウ(ムモン) 多 *クモガタシロチョウ 4 *クロテンシロチョウ 4
 ツマベニチョウ 1 *スジグロトガリシロチョウ 多 *タイワンキチョウ 多
 *タイワンシロチョウ 多 *ニセキチョウ 多 *アマミウラナミシジミ 多
 *シロウラナミシジミ 多 *シャマキマダラルリツバメ(*Spindasis shama*) 1
 *センタウルスムラサキシジミ(*Narathura centaurus*) 4 *タッパンルリシジミ 1
 *ヒメウラナミシジミ 多 *ホリイコシジミ 多 ルリウラナミシジミ 多
 マルバネウラギンシジミ(*Curetis* 属の1種) 2 オオゴマダラ 1 シロモンルリマダラ 5
 *ツマムラサキマダラ 4 *リュウキュウアサギマダラ 4 アオタテハモドキ 2
 *ウスイロネットタイヒョウモン(*Cirrochroa tyche*) 2 *クロタテハモドキ 多
 *ツマグロイシガキチョウ(*Cyrestis nivea*) 1 *ネフテミスジ(*Neptis nefte*) 3
 *ハレギチョウ 2 *ヒメウラベニヒョウモン(*Phalanta alcippe*) 2 *モニナイナズマ 1
 *ペリウスミスジ(*Neptis perius*) 4 *ラリアチビイシガキ(*Chersonesia laria*) 1
 *リュウキュウミスジ 多 *リュウキュウムラサキ 2
 *オリッサミナミヒョウモン(*Cirrochroa orrissa*) 1 *オナガタテハ(*Vagrans cina*) 1
 *コウラナミジャノメ 多 *カギコジャノメ(*Mycalesis suaveolens*) 多
 *ヒメヒトツメジャノメ 2 *チビウラナミジャノメ(*Ypthima pandocus*) 9
 *キマダラセセリ 多 *チャイロクロセセリ(学名不詳) 5
 *ヒメチャイロクロセセリ(学名不詳) 3 *ホシボシアカネセセリ 多

③ 1996-3-24 ゴンバ 晴 風強い

アオスジアゲハ 4 オビクジャクアゲハ 1 シロオビアゲハ 2
 ウスキシロチョウ(ムモン) 2 キチョウ 多 クモガタシロチョウ 1
 スジグロトガリシロチョウ 多 タイワンキチョウ 多 タイワンシロチョウ 多
 *ベニモンシロチョウ(*Delias hyparete*) 1 アマミウラナミシジミ 多
 シロウラナミシジミ 多 センタウルスムラサキシジミ 2
 *トラフミツオシジミ(*Drupadia theda*) 5 *ルリウラナミシジミ 多
 *タイワンアサギマダラ 1 *ツマムラサキマダラ 6 オオイナズマ(*Leexias pardalintis*) 1
 *クロタテハモドキ 多 タイワンキマダラ(*Cupha erymanthis*) 1
 *ヘリオビイナズマ(*Tanaecia iapis*) 1 リュウキュウミスジ 多 カギコジャノメ 多
 コウラナミジャノメ 多 チャイロクロセセリ 2 ヒメチャイロクロセセリ 1

交通ガイド

経済発展の著しい東南アジアでは、昔と比べて物価水準もずいぶんと上昇し、何でも安いというわけにはいなくなりましたが、それでも贅沢さえしなければまだまだ日本に比べると色々なものが割安ですから、観察地への足はタクシーをチャーターするのが便利です。



写真1 ゲンチンシンパ付近の密林 (マレーシア・ゲンチンシンパ, 1996.3.23)



写真2 湿地で吸水するネフテミスジ (マレーシア・ゲンチンシンパ, 1996.3.23)

初めてゲンチンシンパへ行った時には私もタクシーを使いました。一日チャーターして7000円くらいでした。マレーシアは治安も良く、英語も比較的良く通じるので、英語の話せる質の良い運転手さえ見つければ安心です。ホテルで頼むと良いと思います。ただし乗る前に値段はキチンと交渉しておくことをお勧めします。タクシーの便利な点は、地理不案内の場所でも気を使わずにすみ、昼飯の心配もいらないことです。(マレーシアでは都市部を離れるとレストランはおろか、売店一軒ありません。山の中ではなおさらです。昼飯は全て運転手にお任せしかありません。)しかし普通のタクシーは観光客相手ですからこちらの奇妙な要求(例えば、蝶を見たいので人のいない密林地帯へ行ってくれなど)を相手に理解させるのはかなり苦労します。またせっかく面白そうな枝道などを見つけても、中まで入ってくれとはい言にくいし、長時間車から離れるのも不安、といった点で不便もあります。そんな訳で私は2回目の時はレンタカーを借りました。2日間借りて1万円くらいですから値段は安いのですが、地図にとらめっこをしながらの車の運転は、市街地では特に疲れます。クアラルンプールの市内は一方通行も多いので、車の運転に自信のある方以外にはお勧めできません。しかし山の中に入ればさすがに機動性が高く、自由自在に歩き回れますから蝶の観察には便利です。ただし前述のように山の中には昼食が出来る店はありませんから、出発前に軽食を準備し持参しておかないと昼飯に食いはぐれることになります。ゴンバまでならクアラルンプールから3時間で往復できますから、半日余裕を作れば熱帯の大自然を満喫できます。

1-2 スパン国際空港

クアラルンプールの国際空港は都心から西へ20kmほど離れたスパンという場所にあります。この空港はターミナルが3つもある近代的で立派な国際空港で、どこをみても人工的な建造物ばかりですが、さすがに熱帯だけあって、駐車場わきの草むらや植え込みの花壇、そして緑地帯の林、などちょっとした緑にも様々な蝶が来ています。花壇の花にはシロウラナミシジミやスジグロトガリシロチョウが集まっていますし、緑地帯の下草にはメタリックブルーの美しいエリルスシジミも見られます。ターミナルとターミナルの間には広々とした緑地帯があつてちょっとした林のような感じになっていますが、この林の中には派手な色彩のベニモンシロチョウがフワフワと飛んでいます。この蝶はもっとも身近に見られるカザリシロチョウの1つでしょう。私は出国前に少し早めに空港へ出かけ、荷物をチェックインしてカメラ1つを持って空港の中をブラブラ歩くのを楽しみにしています。こんな人工的な場所にいる蝶ですから、決して珍しい蝶ではないのですが、日本では見られない蝶たちが、意外に簡単に見られる穴場なのです。もっとも旅行者でこんな場所を徘徊をする人間はめったにいないらしく、時々不審人物として見咎められることもあります。空港を警備する警察官に呼び止められて尋問を受けたことが2度ありました。そんな時は堂々と「蝶の写真を撮っています」と答えれば良いのです。笑顔で「気をつけて」と解放してくれるでしょう。

【記録】

④1995-1-24 スパン 晴

ウスキシロチョウ 3 スジグロトガリシロチョウ 多 タイワンシロチョウ 2
ベニモンシロチョウ 多 エリルスシジミ(*Tajuria igolotiana*) 3 シロウラナミシジミ 8

シルビアシジミ 1 ホリイコシジミ 3 アオタテハモドキ 3 タテハモドキ 3
 メスアカムラサキ 1 ハイイロタテハモドキ(*Junonia atilites*) コウラナミジャノメ 多
 キマダラセセリ 多 チャバネセセリ 多

⑤1996-3-24 スパン 曇り 風強し

シロウラナミシジミ 2 ホリイコシジミ 1 コウラナミジャノメ 4
 ネットタイアカセセリ 1

交通ガイド

入国時はたいていその後の予定が決まっていますから、出国時がチャンスです。市内から空港までおよそ1時間かかりますから3時間程前にホテルを出発すると良いと思います。あまり早く到着してもチェックインが出来ません。国際線出発はターミナル1ですが、散策にはここからターミナル2（シンガポール線）へ向かって歩くか、駐車場へ向かって歩くのが良いと思います。不安な方はターミナルビル真ん前の花壇だけでも覗いてみて下さい。花壇の花にもけっこう色々な蝶が来ています。

1-3 クアラルンプール市内

ホテルやオフィスビルが林立する市内中心部ではさすがに蝶の数は多くはありませんが、それでもちょっと裏通りに入れば道端の草むらにスジグロトガリシロチョウやホリイコシジミはたくさん見られますし、ランタナの花壇でもあればウスキシロチョウも飛来しています。市内の西部にレイクガーデンという公園があります。公園内には首相官邸や国会議事堂もありますが、自然の湖もあり、蘭の庭園や小鳥を集めた庭園などもあって、市民の憩いの場所です。東京で言えば日比谷公園か新宿西口公園といったところでしょうか。市内でもこういう緑の多い場所にはたくさんの蝶が飛んでいます。やはりウスキシロチョウやホリイコシジミが多く、時としてクロテンシロチョウ、シロウラナミシジミ、メスアカムラサキ、カバタテハ、コモンマダラなども見られます。もちろんマレーシアの日比谷公園を飛んでいる蝶ですから、日本で言えばモンシロチョウやヤマトシジミ、アゲハチョウと言った普通種なのでしょうが、やはり見慣れない蝶が飛ぶのを見るのは中々楽しいものです。

【記録】

⑥1995-1-21 KLレイクガーデン 晴

ウスキシロチョウ 多 ウラナミシロチョウ 1 クロテンシロチョウ 6
 スジグロトガリシロチョウ 多 ベニモンシロチョウ 12 シロウラナミシジミ 3
 ホリイコシジミ 多 コモンマダラ 1 カバタテハ 1 メスアカムラサキ 4
 リュウキュウミスジ 2 コウラナミジャノメ 多

⑦1996-3-24 KLブキビンタン 晴

キチョウ 3 スジグロトガリシロチョウ 多 ウスキシロチョウ(ムモン) 2
 ツマベニチョウ 1 ホリイコシジミ 多 コラナミジャノメ 4

交通ガイド

レイクガーデンは市内にあります。西部丘陵地帯にあつて、ホテルが集中するブギビンタン地区からは4～5km離れていますので、歩いて行くのはちょっと無理です。バスもあるようですが、不慣れな旅行者にはバスは中々利用しにくいのでタクシーを使います。帰りの足のためにタクシーは乗り捨てず見学中も待たせておいた方が良いでしょう。料金は安いのでこの方が便利です。レイクガーデンの中には蝶農園(バタフライガーデン)という観光施設もあります。東京の多摩動物公園の昆虫園を一回り大きくしたような施設で、全体がガラス張りの巨大なドーム。内部にはバナナやヤシの木を植え込み、各種のシダや無数の花々が植えられていて、人工的ではありますが、ある程度自然の環境を再現してあります。全て飼育された個体なのでしょうが、内部には数多くの熱帯産の蝶が飛び交っています。アカエリトリバネアゲハを始め各種のキシタアゲハ、ホソバオオゴマダラやウスキアサギマダラ、ツマムラサキマダラそしてオオイナズマやムラサキコノハチョウ、リュウキュウムラサキといった大型で豪華な美麗種が多いので中々楽しい場所でもあります。この他、ジャングルでも中々目にする機会のない各種のワモンチョウも見られました。

トリバネアゲハは本来が溪流の蝶なので、こんな環境では居心地が悪いのか、ドーム壁面の金網にへばりつき翅を広げて休んでいる個体ばかりでしたが、それでも気品のある立派な蝶であることは観光客の誰でも感じるらしく、訪れる人皆んなが注目していました。しかしいくら珍しい蝶が飛んでいるからと言っても、こんな人工的な場所で見ると蝶はちっとも感動しませんが、それでもどうしても生きているアカエリトリバネアゲハが見たい方にはお勧めスポットです。

ところでこの蝶農園は、入園料が4RM(160円くらい)ですが、カメラを持って入ると、さらに1RMよけいに取られます。私は午前と午後1日に2回訪れたことがありますが、午前中は4RMだったのに午後入ろうとすると5RM請求されました。文句を言うと写真を撮るなら1RMをプラスして払えと言われました。午前中もカメラは持っていたのですが、バッグにしまっていたので(別に隠すつもりはありませんでしたが)係員が気づかなかったようです。入園時にカメラをバッグにしまっておくと1RM得をしますよ。

(1) 大津昌昭「アカエリトリバネチョウ」築地書館 (1981年)

(つつみ ひさお 〒345 南埼玉郡宮代町宮代台1-20-15)

.....

身近に見られる東洋熱帯の蝶 (2)

塘 久夫

.....

2. タイ

タイは東南アジア諸国の中でも最も早くから経済発展が始まった国の1つですが、その意味では自然環境が近年もっとも激変した国かもしれません。また早い時期から経済発展が始まった割には鉄道や道路などのインフラの整備が立ち遅れ、今やバンコク市内の交通渋滞は慢性的かつ危機的状況になりつつあります。ほんの10数年前には、市内の目抜き通りの交差点の真ん中で、交通整理をする警察官の周囲に無数のウスキシロチョウが飛び回っていたのを見たことがあります。今ではこんな光景は夢のまた夢になってしまいました。

2-1 カンチャナブリ

カンチャナブリはバンコクから北西へ130km、映画「戦場に架ける橋」で有名な泰緬鉄道がクワイ河を渡る場所にあります。バンコクを出発した高速バスが2時間近くを走るところ、ようやく車窓の景色が変化してきます。それまでは、水田かココヤシの畑が点在するだけの単調な景色で、地平線が見えるほどにまっ平らな大地が続いていましたが、ようやく左右に小高い丘が見えてきます。左手にはクワイ河の悠々とした流れも見え始めました。このあたりはもうマレー半島へとつながるマレー山脈の麓に近い場所になるのです。カンチャナブリのバスターミナルからクワイ河の鉄道橋までは約3km。この周囲には連合軍共同墓地や戦争博物館など戦争の遺跡も多く、ちょっとした観光地です。鉄橋の周辺も土産物屋が立ち並び、水上レストランが軒を並べる観光名所ですが、橋を渡ればようやく少しは静かな草原や森があらわれます。線路際の小さな草はらにはオナシアゲハやスジグロトガリシロチョウ、カバマダラなど典型的なオープンランドの蝶が飛んでいます。河原の荒地にはカバタテハやメスジロキチョウも見られますし、樹林縁には少ないながらキシタアゲハも飛んできます。畑の周囲に取り残された小さな林の周辺では、乾期ならアサギシロチョウやマネシアゲハ、メガルスタイマイなども見られます。しかしこの暑さは強烈です。特に木陰のない草原に立っていると、直射日光の攻撃をまともに受けるので、たちまち頭がクラクラとしてきます。汗は滝のように流れ出て止まらないし、心臓はドキドキと心拍数が急上昇。長居は危険という感じです。熱帯アジアで蝶を見る時は、いつもある程度は暑さの覚悟はしているのですが、私には4月～5月のタイの暑さが一番厳しいように感じます。

【記録】

⑧ 1995-4-1 カンチャナブリ 晴

オナシアゲハ(*Papilio demoleus*) 10 キシタアゲハ(*Troides aeacus*) 1 シロオビアゲハ 2

ベニモンアゲハ 2 *ウスキシロチョウ(ギンモン) 多 ウスキシロチョウ(ムモン) 2
 *クロテンシロチョウ多 *スジグロトガリシロチョウ(*Appias libythea*) 15
 *ネリッサシロチョウ(*Appias nerissa*) 6 *メスジロキチョウ 多
 *ドウケシジミ(*Castalius rosimon*) 4 *ホリイコシジミ 14 *カバマダラ 5
 ガランピマダラ(*Euploea core*) 1 シロモンルリマダラ(*Euploea diocletianus*) 1
 スジグロカバマダラ 多 *リュウキュウアサギマダラ 2 カバタテハ 2
 クロタテハテハモドキ(*Junonia iphita*) 2 *イリアホソチョウ(*Acreae violae*) 1
 ハイイロタテハモドキ(*Junonia atilites*) 2 ジャノメタテハモドキ(*Junonia lemonias*) 2

⑨ 1997-2-11 カンチャナブリ 晴

シロオビアゲハ 1 *ベニモンアゲハ 8 *マネシアゲハ(*Chilasa clytia*) 1
 *メガルスタイマイ(*Graphium megarus*) 16 *アサギシロチョウ(*Pareronia valeria*) 多
 *ウスキシロチョウ(ギンモン) 多 *ウスムラサキシロチョウ(*Cepora nadina*) 多
 キシタウスキシロチョウ(*Catopsilia scylla*) 4 *クロテンシロチョウ 多
 *スジグロトガリシロチョウ 多 *タイワンキチョウ多 *タイワンシロチョウ 多
 *ネリッサシロチョウ 多 *メスジロキチョウ 多 *シルビアシジミ 6
 *ドウケシジミ 12 *ヒメウラナミシジミ 多 *ホリイコシジミ 多
 *ガランピルリマダラ 2 *ヒメアサギマダラ(*Parantica aglea*) 1 *イリアホソチョウ 5
 ジャノメタテハモドキ 4 *リュウキュウミスジ 1

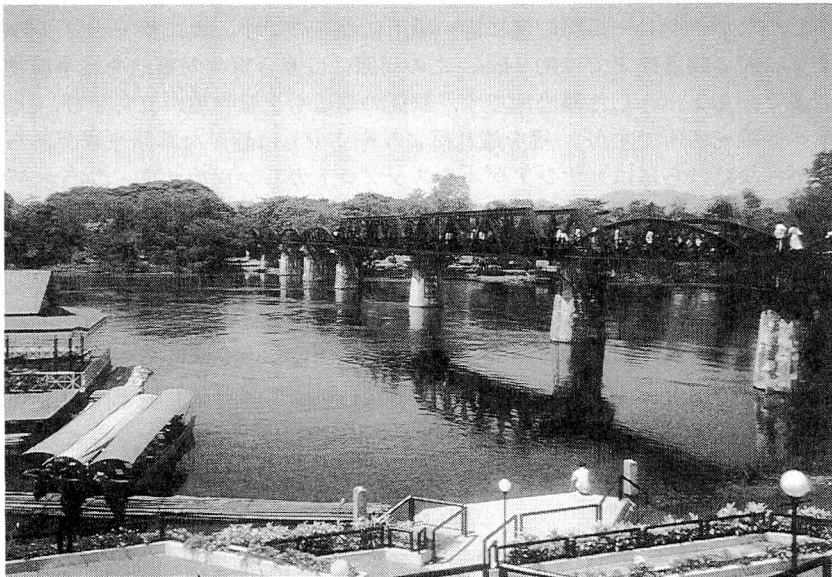


写真1 クワイ河の鉄橋 (タイ・カンチャナブリ, 1995. 4. 1)

交通ガイド

バンコクの南バスターミナルから直行の高速バスが出ています。2時間半の冷房付きバスの旅で62バーツ (250円くらい) は格安です。ただし路線バスなので途中何ヶ所かの停留所があり、バンコクを出る時に満員だった乗客が次第々々に降りていき、人数は少なくなってくるし、言葉は通じないしで、心細くなります。観光客はあまりこのバスは利用しないようです。しかしあわてることはない、終点まで乗っていれば良いのです。ポイントは出発する時に行き先を間違えないことですが、行き先表示も全てタイ語で全く読めませんのでこれにはかなり気を使いました。私は英語の出来るタイ人に「カンチャナブリ行きのバスの切符を売って下さい」とか「カンチャナブリ行きのバス乗り場は何番ですか」など必要なことをタイ語で書いたカードを作ってもらい、カードを見せながら行動しました。バスを利用する時は言葉の通じる人を見つけて、必要なことをはっきりと確認しておくことです。

バスの終点のカンチャナブリバスターミナルを降りるといっせいにたくさんのサムロ (自転車で引っ張る人力車) が駆け寄ってきて「乗れ乗れ」と言い寄ります。しかしサムロには乗らないほうが無難でしょう。私はつい乗せられてしまい、鉄道橋までのわずか10分で150バーツも取られました。オートバイなら20バーツ、タクシーでも30バーツですからこれは法外な値段です。帰路は一日に数本ある鉄道を利用しても良いでしょう。クワイ河鉄橋すぐ近くに鉄道の駅があり便利です。ただし便数が極端に少ないので余裕のない時にはバスターミナルまで戻るしかありません。歩いても40分くらいのはずですが、暑さでヘトヘトに疲れているはずですからとても歩けないでしょう。鉄橋近くの広場に観光警察の交番がありますので、ここの警官に頼むとバイクかタクシーを呼んでくれます。観光警察は英語がよく通じるので安心です。カンチャナブリは半日での往復は難しいですが、朝早く出れば昼過ぎにバンコクに戻ることは可能です。

バスに乗るのがめんどろな人はホテルリムジンをチャーターする手もあります。一日借り切って3万円くらいと高いのですが、行動の自由度は大幅に広がります。

ここ13年間での変遷

私が初めてカンチャナブリを訪れたのは1982年のことでした。再訪したのが1995年、三度目が1997年ですから、途中に約13年間の空白があります。この間の自然環境の変遷を示唆する意味で少し古い記録ですが、当時の採集記録を示しておきます。この時は採集が中心で正確な観察記録は残っていませんがそれでも蝶相がかなり変化したことはわかります。

【記録】

⑩ 1982-5-16 カンチャナブリ 晴

*オナシアゲハ 多 *キシタアゲハ 多 *シロオビアゲハ 多 *ベニモンアゲハ 多
 モンキアゲハ 多 *イワサキシロチョウ 1 *ウスキシロチョウ(ギンモン) 多
 *ウスキシロチョウ(ムモン) 多 ウラナミシロチョウ 多
 *スジグロトガリシロチョウ 多 *タイワンキチョウ 多 ツマベニチョウ 多
 *メスジロキチョウ 多 クロテンシロチョウ 多 *ドウケシジミ 多
 ホリイコシジミ 多 *カバマダラ 多 *ガランピマダラ 多
 *シロオビマダラ(*E. camaralzeman*) 多 *スジグロカバマダラ 多

リュウキュウアサギマダラ 多 *アオハレギチョウ(*Cethosia cyane*) 1
 ウラベニヒョウモン 1 *カバタテハ 多 *ジャノメタテハモドキ 1
 *タテハモドキ 多

1982年当時はビルマ（ミャンマー）の政情が不安定で、国境地帯にはゲリラも出没し、カンチャナブリへ行くのにも、途中機関銃を持った兵士が警備をする検問所を2回も通り抜けなければなりません。行きにここで通行許可証をもらい、帰りにはその許可証を返さないと通れないという仕組みのようでした。もちろん言葉はほとんど通じません。この時は社有車で出かけ、運転手もタイ人でしたので問題なく通れましたが、こんな状況ですからカンチャナブリを訪れる人は少なかったようです。バンコクからカンチャナブリへと向かう道路は、車も少なくスピードも出せましたが、道路を走っていると、フロントガラスに次々と蝶がぶつかり、砕け散った鱗粉のために視界が妨げられて運転手が時々ウインドウオッシャーをかけていました。（こういう光景はもはや東南アジアの都市近郊ではどこでも経験出来なくなってしまいました。各国で立派な高速道路がどんどん整備されてきましたが、その分だけ蝶の個体数もどんどん減少してきたように思います。もっともつい最近、北海道のオンネトー湖周辺で似たような体験をしました。ここではコヒオドシの数がとても多く、時々フロントガラスにコヒオドシが激突します。ここでは交通事故死をするコヒオドシの数は相当数だと思います。それでも鱗粉で視界が悪くなるほどの衝突数ではありませんでしたが）

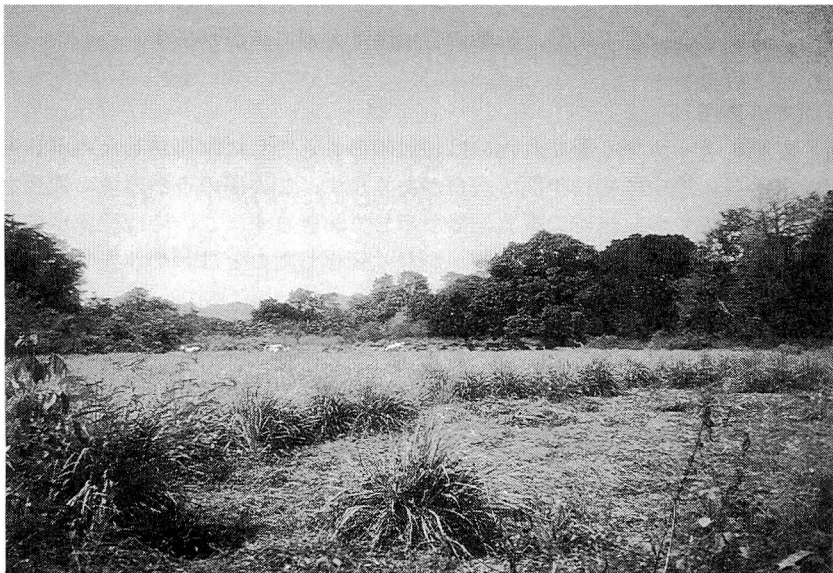


写真2 昔、ジャングルだった場所も開墾されて畑と牧草地に
 (タイ・カンチャナブリ 1995. 4. 1)

カンチャナブリは当時から戦争遺跡の集まる観光地ではありましたが、土産物屋などはほとんど無く閑静な場所でした。列車も通れば人も歩くという泰緬鉄道の長い鉄橋を、たった1人でトボトボと歩きました。橋を渡ればほとんど無人地帯。水辺には荒れた草原が広がり、その奥は密林地帯でした。蝶の数はどこでもものすごく多く、荒れた河原の草原ではメスジロキチョウやオナシアゲハ、カバタテハなどは無数と言ってよいほどでしたし、樹林周辺ではキシタアゲハが相当数飛び交っていました。墓地のような場所で待っていると、シロオビアゲハやベニモンアゲハに混じってキシタアゲハも飛来するし、アオハレギチョウのようなタテハの類もやってきました。そして少し開けた小広場のような場所にはシロオビマダラやガランピマダラといったマダラ類がフワフワと、これも無数に飛び交っていました。とにかくどこを見ても蝶の種類と数はものすごく多く蝶を捜す必要などは全くありませんでした。

13年ぶりに再訪したカンチャナブリは、周囲の環境が激変していました。13年前、車を止めた何もない荒れ地の広場は今はいさぎよくに整地され、公園のように整備されていてその周囲にはたくさんの土産物屋や露店が立ち並び、たくさんの観光客で賑わっています。昔、この広場に無数のシロオビマダラやガランピマダラが集まっていたことなどウソのようです。水辺も大きく変貌していました。水上レストランも5～6軒にも増え、川面には屋形舟のような川舟やモーターボートが数多く係留されていました。鉄橋そのものは変わっていませんでしたが、橋を渡った向こう岸は全くの様変わり。13年前、一面の荒れた草原だった河原には庭園つきのレストランが出来たり、見せ物小屋や食べ物小屋が立ち並んでいます。大きな象もいて、観光客相



写真3 ランタナに止まるイリアホソチョウ（タイ・カンチャナブリ）

手に芸を見せたりしています。そして手つかずの密林だった場所もすっかり開墾され、山羊や牛の放牧場になったり、サトウキビやパイナップルの畑に変わっていました。これだけ環境が変わってしまえば、蝶の種類や数が減ってしまうのは当然でしょう。記録⑧と⑩を比較しただけではわかりにくいのですが、蝶の個体数は大幅に減ったと思います。1995年の4月は蝶の数自体が大変少なく、道路ぞいを歩いているだけでは中々面白い蝶は見られませんでした。

1997年の2月、3度目にカンチャナブリを訪れた時は、初めて乾期にやって来たためか蝶相がいくらか違っており、アサギシロチョウやマネシアゲハ、メガルスタイマイなど、この場所では初めて見る種類もいくつか見られましたし、メスジロキチョウやウスキシロチョウを始めとする中型のシロチョウ類はかなり個体数も多く、一安心しましたが、それでも道路沿いでは蝶はあまり見られず、蝶を見るには畑の周囲や林の中に足を踏み入れなければなりませんでした。

2-2 バンコク市内

バンコクは東南アジアでも最大級の大都会。都心の商業地は人込みと観光客で賑わい、裏通りは屋台や土産物屋で喧騒が渦巻き、とても活気のある町です。交通渋滞も激しく騒音と排気ガスも相当なものです。当然、ゆっくりと蝶を観察するような雰囲気にはありません。しかし熱帯地方では少しでも緑が残っている所にはけっこう蝶がいるものです。私は外国に行った時、休日にはよく動物園に行きます。動物園は比較的緑が多いからです。もっとも動物園に行っても動物はあまり見ずに蝶ばかり探していますが・・・バンコクではデュシット動物園に行ってみました。ここはチッタラダ宮殿（王宮）のすぐ近くで、バンコク市内にあっては例外的に緑の多いゆったりした場所です。動物園の内部も広々とした敷地に噴水や遊歩道、ちょっとした森などもあって休息にはもってこいです。遊歩道に植えられたハイビスカスやデイゴの花にはオナシアゲハやツマベニチョウがひっきりなしに訪れます。木陰に入るとクロテンシロチョウ。花壇の花にはキシタウスキシロチョウやジャノメタテハモドキ、コモンタイマイも来ていました。そして生け垣の花にはたくさんのカクモンシジミが群れています。池を渡る遊歩道の橋の上ではヘリオビイナズマが吸水していました。この日は日曜日で園内は家族連れで賑わっていましたがそんな人込みの中を、踏みつけられそうになりながらも、逃げる気はないらしく、堂々としたもので、悠然と飛び回ったり、三たび四たびと同じ場所に舞い戻り吸水を繰り返していました。このヘリオビイナズマはマレーシアで見られるものより、色彩がずっと濃く、別の亜種かもしれません。

またタイは仏教信仰の厚い国ですから、バンコク市内にもたくさんの仏教寺院があります。有名なお寺は多くの観光客で賑わっていますが、中には静かな寺院もあります。ワットサケット（サケット黄金寺）は黄金の仏像があってどのガイドブックにも紹介されている有名寺院の一つですが、その割には意外なほど観光客の少ない静かな場所です。この寺院は標高78mの人工的に作られた丘の上に建っています。人工的とは言っても100年以上前に作られた丘なので今では斜面に巨木が生い茂り、緑の豊かな場所になっています。1997年の2月に、このお寺を訪ねた時、朝から木々の間を無数のベニモンシロチョウが飛び交い、実に見事な眺めでした。

【記録】

⑪1996-5-19 デュシット動物園 晴

オナシアゲハ 8 コモンタイマイ(*Graphium agamemnon*) 2 ウラナミシロチョウ 多
 キシタウスキシロチョウ(*Catopsilia scylla*) 多 ウスキシロチョウ(ギンモン) 多
 ウスキシロチョウ(ムモン) 多 ツマベニチョウ 多 クロテンシロチョウ 6
 カクモンシジミ 多 ハマヤマトシジミ 多 スジグロカバマダラ 6 タテハモドキ 1
 ジャノメタテハモドキ 2 ヘリオビイナズマ(*Tanaecia iapis*) 1

⑫1997-2-12 デュシット動物園 晴

コモンタイマイ 8 ウスキシロチョウ 2 キシタウスキシロチョウ 多
 クロテンシロチョウ 5 スジグロトガリシロチョウ 多 タイワンキチョウ 8
 タイワンシロチョウ 多 ベニモンシロチョウ 16 ハマヤマトシジミ 多
 ヒメウラナミシジミ 多 カバマダラ 5 スジグロカバマダラ 6
 ジャノメタテハモドキ 4 ハイイロタテハモドキ 1 ルリモンジャノメ (学名不詳) 1

⑬1997-2-12 サケット寺院 晴

ウスキシロチョウ 1 クロテンシロチョウ 多 スジグロトガリシロチョウ 8
 タイワンシロチョウ 6 ベニモンシロチョウ 多 ヒメウラナミシジミ 多

交通ガイド

デュシット動物園は市内の西のはずれにあり、ホテルの集中するサイアムスクエアやシーロム通りからは少し離れていますので移動はバスかタクシーということになります。バンコク市内はバスも縦横に走っていますが行先表示はタイ語だけですし、動きが複雑なので慣れない旅行者には不向きです。やはり市内の移動はタクシーが便利でしょう。

サケット寺院は動物園からなら歩いても30分くらいで行けませんが、とにかく暑い国なので移動はやはりタクシーを拾うのが無難でしょう。バンコク市内は流しのタクシーが多いので、どこでも簡単にタクシーは拾えます。ただし日本人観光客だと見ると、どんなに近くても100バーツなんて吹っ掛けてくる悪質な運転手もいます。もちろんきちんとメーターを倒して走る良心的な運転手も多いので、乗る前にメーターで走るかどうかを確認してから乗車することをお勧めします。

(つつみ ひさお 〒345 南埼玉郡宮代町宮代台1-20-15)

.....

埼玉県東部におけるトンボ類の記録

鈴木 幸

.....

1996年の埼玉県東部におけるトンボの記録を報告する。記録はすべて目撃または撮影によるもので、採集記録でないことを明示する意味で観察個体数を()でくくった。また、記録年の“1996”は省略した。

カワトンボ科 ハグロトンボ	浦和市南部領辻見沼代用水東縁 (5♂2♀) 6. 8
イトトンボ科 クロイトトンボ	岩槻市平林寺赤坂沼 (♂♀多数) 7. 6
アジイトトンボ	浦和市寺山見沼自然公園 (多数) 6.15 岩槻市平林寺赤坂沼 (♂♀多数) 7. 6 浦和市寺山見沼自然公園 (多数) 7.28
キイトトンボ	岩槻市平林寺赤坂沼 (2♂1♀) 7. 6
アオモンイトトンボ	越谷市長島健康福祉村 (♂♀若干) 8. 3
ベニイトトンボ	岩槻市平林寺赤坂沼 (♂♀若干) 7. 6 岩槻市平林寺赤坂沼 (♂♀若干) 8. 3
ヤンマ科 ギンヤンマ	浦和市寺山見沼自然公園 (2♂) 7.28 越谷市長島健康福祉村 (1♀) 7.28 浦和市寺山見沼自然公園 (1♂) 8.4
サナエトンボ科 ウチワヤンマ	浦和市寺山見沼自然公園 (3♂) 7. 6 越谷市長島健康福祉村 (4♂) 7.28 浦和市寺山見沼自然公園 (3♂) 8.4
エゾトンボ科 オオヤマトンボ	浦和市寺山見沼自然公園 (4♂) 6.15 浦和市寺山見沼自然公園 (2♂) 7.28
トンボ科 シオカラトンボ	浦和市寺山見沼自然公園 (多数) 6.29
シオヤトンボ	浦和市寺山見沼自然公園 (多数) 6.29

ショウジョウトンボ	越谷市長島健康福祉村 (1♂1♀) 7.28 浦和市寺山見沼自然公園 (産卵) 9.16
コフキトンボ	浦和市寺山見沼自然公園 (♀オビ型) 6.29 越谷市長島健康福祉村 (1♂1♀オビ型) 7.28
アキアカネ	浦和市寺山見沼自然公園 (羽化) 6.29
ノシメトンボ	浦和市寺山見沼自然公園 (多数) 6.29
コシアキトンボ	浦和市寺山見沼自然公園 (多数) 7.28
チョウトンボ	越谷市長島健康福祉村 (1♂1♀) 7.28 浦和市寺山見沼自然公園 (1♀) 8.4 越谷市長島健康福祉村 (1♀) 8.10

(すずき みゆき 〒333 川口市東川口5-6-24-306)

.....

4月に入間市でハンミョウを採集

利根川雅実

.....

ハンミョウについて、この時期の生息状況を実際に確かめたいと思い、星野氏に入間市の狭山湖周辺へ連れて行ってもらった。14時ころの10分程度の間に5頭目撃し、そのうち2頭採集した。所沢市堀之内から歩いて現地に行ったが、その途中でアオオサムシが道を歩行していたものも採集した。また、人か車に踏まれていた新しい個体3頭を確認した。

今年は梅や桜の開花が異常に早い年であり、当日も気温25℃以上の夏日であった。寄せ蛾記によると「1996年5月25日に多数の個体や交尾中の個体を見た・・・」とあり、星野氏によると今回は個体数が少ないので、まだ、越冬からさめて活動をはじめたばかりではないかとのことである。

また、日高市滝不動では10個体以上のニワハンミョウを確認し、採集したので報告する。

ハンミョウ	2 exs	1997.4.29	入間市宮寺
ニワハンミョウ	6 exs	1997.4.29	日高市台 (滝不動)
アオオサムシ	1♀	1997.4.29	入間市宮寺

参考文献

星野 正博 (1996) サカハチチョウの記録を含む狭山湖周辺の観察, 寄せ蛾記, (80) : 2131-2132

(とねがわ まさみ 〒336 浦和市三室 3471-1)

.....

ヒメツユムシ亜科の採集記録

柴田直之

.....

筆者の所持するキリギリス科ヒメツユムシ亜科(ササキリモドキ類)の記録を報告する。
当記録中の *Nipponomeconema* 属(ムサシセモンササキリモドキ, ムツセモンササキリモドキ)は分類の研究が進んでおらず, 単にセモンササキリモドキ(*Nipponomeconema* sp.)として取り扱う場合も多いが, 今回複数の地域のことを比べることにより *N.musashiense* と *N.mutsuenae* に振り分けることが出来た。このことに関する詳細は現在「ぱったりぎす(日本直翅類学会)」にて発表を予定している。

なお, 筆者の採集品については採集者名を省略した。

ミドリササキリモドキ(ササキリモドキ) *Xiphidiopsis suzuki*

静岡県田方郡中伊豆町八幡	1 ♀	1997年9月4日
--------------	-----	-----------

セスジササキリモドキ *X.spathulata*

埼玉県秩父郡荒川村町分	1 ♂ 1 ♀	1997年8月31日
静岡県田方郡中伊豆町八幡	2 ♂	1997年9月4日
埼玉県比企郡滑川町根岸	1 ♀	1997年9月6日

ヒメツユムシ(コガタササキリモドキ) *Leptoteratura albicorne*

埼玉県秩父郡大滝村鶯平	1 ♂ 1 ♀	1997年8月31日
埼玉県秩父郡荒川村町分	1 ♀	1997年8月31日
静岡県田方郡中伊豆町八幡	1 ♀	1997年9月4日
新潟県南魚沼郡六日町三国川ダム湖畔	1 ♀	1997年10月1日
(佐渡以外の新潟県初記録?)		
東京都西多摩郡奥多摩町日原	1 ♂ 1 ♀	1997年10月12日

ムサシセモンササキリモドキ(ムサシツユムシモドキ) *Nipponomeconema musashiense*

群馬県利根郡水上町湯檜曾駅	1 ♀	1996年9月16日
長野県南安曇郡安曇村白骨温泉	1 ♂	1996年9月19日
群馬県吾妻郡草津町谷所	2 ♂ 2 ♀	1997年9月27日
群馬県吾妻郡吾妻町上組	1 ♂	1997年9月27日
群馬県利根郡水上町栗沢	1 ♀	1997年9月27日
新潟県南魚沼郡六日町三国川ダム湖畔	1 ♂	1997年10月1日

新潟県南魚沼郡湯沢町二居	1 ♂	1997年10月1日
東京都西多摩郡奥多摩町留浦	1 ♂(死骸)	1997年10月12日
山梨県北都留郡丹波山村丹波	1 ♂	1997年10月23日

ムツセモンササキリドキ (ムツツユムシモドキ) *N.mutsuense*

福島県南会津郡伊南村小豆温泉	2 ♂ 6 ♀	1997年9月11日
福島県南会津郡檜枝岐村檜枝岐温泉	1 ♂	1997年9月11日
福島県南会津郡檜枝岐村砂子平	1 ♂ 3 ♀	1997年9月12日
福島県南会津郡檜枝岐村砂子平	1 ♂	1997年10月10日

クロスジコバネササキリモドキ *Cosmetura ficifolia*

静岡県沼津市愛鷹山(標高600~650m)	1 ♂ 2 ♀	1997年8月13日
静岡県田方郡函南町軽井沢	1 ♂	1997年8月13日
静岡県賀茂郡東伊豆町遠笠山	1 ♂	1997年9月4日
	(キタハダカササキリモドキと混生)	
山梨県北都留郡丹波山村丹波	1 ♂	1997年10月23日
	(山梨県初記録?)	

キタハダカササキリモドキ (ヒメヤブキリモドキ) *Tettigoniopsis forcipicercus*

神奈川県足柄下郡箱根町駒ヶ岳山頂付近	1 ♂ 1 ♀	1997年8月24日
埼玉県秩父郡大滝村中津川集落	1 ♀	1997年8月31日
静岡県賀茂郡東伊豆町遠笠山	4 ♂ 1 ♀	1997年9月4日
長野県北佐久郡軽井沢町浅間越	1 ♀	1997年9月27日
長野県小県郡真田町渋沢	1 ♀	1997年9月27日
長野県小県郡真田町菅平口	1 ♀	1997年9月27日
群馬県吾妻郡草津町谷所	1 ♀	1997年9月27日
群馬県吾妻郡草津町立石	2 ♀	1997年9月27日
新潟県南魚沼郡六日町三国川ダム湖畔	1 ♀	1997年10月1日
埼玉県秩父郡大滝村豆焼橋	2 ♀	1997年10月11日 小堀文彦採集

なお、貴重な標本を譲って下さった小堀文彦氏に感謝する。

(しばた なおゆき 350-11 川越市諏訪町18-8)

.....

高層住宅で夜間採集したカミキリムシ

利根川雅実

.....

以前住んでいた高層住宅でほとんど毎日、1階から9階のすべての廊下を見て回り、昆虫を採集していた。そのなかでカミキリムシがまとまったので報告する。なお、()内は階数を示す。

ノコギリカミキリ

1988.6.25 (?F) 1ex. ; 1988.7.9 (1F) 1ex. ; 1988.7.26 (3F) 1ex. ; 1988.8.13 (5F) 1ex. ;

1988.8.21 (3F) 1ex.

ウスバカミキリ

1988.7.11 (5F) 1♀ ; 1988.8.28 (8F) 1♀

クロカミキリ

1988.6.12 (7F) 1ex. ; 1988.6.13 (?5F) 2exs ; 1988.6.14 (?F) 1ex. ; 1988.6.20 (3F) 1ex. ; 1988.6.22 (?F) 1ex. ; 1988.6.24 (3F) 1ex. ; 1988.7.1 (1F) 1ex. ; 1988.7.8 (6F) 1ex. ; 1988.7.10 (2F) 1ex. ; 1988.7.17 (5F) 1ex. ; 1988.8.21 (6F) 1ex. ; 1988.8.24 (4F) 1ex. ; 1988.9.12 (7F) 1ex. ; 1988.9.21 (5F) 1ex.

ムナクボカミキリ

1988.6.12 (?5,6F) 4exs ; 1988.8.1 (?F) 1ex. ; 1988.9.2 (9F) 1ex. ;

キマダラカミキリ

1988.7.31 (4,8F) 2exs

ハイイロヤハズカミキリ

1988.5.2 (6F) 1ex.

キボシカミキリ

1988.?.? (?F) 2♂ ; 1988.7.5 (?F) 1♂ ; 1988.9.10 (5F) 1♂ ; 1988.9.11 (5F) 1♀ ; 1988.9.19 (?F) 1♂ ; 1988.9.26 (1F) 1♀ ; 1988.10.1 (3F) 1♀

ゴマダラカミキリ

1988.6.26 (?F) 1♂ ; 1988.7.11 (3F) 1♂ ; 1988.7.21 (5F) 1♂ ; 1988.7.28 (?F) 3♂ ; 1988.7.29 (2F) 1♂ ; 1988.8.1 (2F) 1♀

クワカミキリ

1988.7.17 (?F) 1ex. ; 1988.7.19 (5F) 1ex.

マツノマダラカミキリ

1988.5.29 (?F) 1♀ ; 1988.8.1 (8F) 1♂

ワモンサビカミキリ

1988.4.30 (7F) 1ex. ; 1988.9.5 (5F) 1ex. ; 1988.9.11 (1F) 1ex..

アトジロサビカミキリ

1988.6.24 (6F) 1ex.

マルクビケマダラカミキリ

1987.7.8 (6F) 1ex. ; 1987.7.22 (3F) 1ex. ; 1987.7.31 (4F) 1ex. ; 1987.8.1 (6F) 1ex. ;
1987.8.1 (2F) 3exs

シラオビゴマフケシカミキリ

1988.6.13 (4F) 1ex. ; 1988.6.17 (3F) 1ex.

アトモンマルケシカミキリ

1987.6.5 (7F) 1ex. ; 1987.6.11 (4F) 1ex. ; 1987.6.24 (6F) 1ex.

テツイロヒメカミキリ

1987.7.14 (6F) 1ex.

エグリトラカミキリ

1987.5.28 (2F) 1ex.

ヒメスギカミキリ

1987.4.30 (7F) 1ex.

カタシロゴマフカミキリ

1987.9.7 (2F) 1ex.

同定を行なってくださった吉越肇氏と築比地秀夫氏に感謝致します。

(とねがわまさみ 〒336 浦和市三室 3471-1)

.....

寄居町でフタコブルリハナカミキリを採集

齊藤 洋一

.....

寄居町で下記のとおりフタコブルリハナカミキリを採集したので報告する。

1997年 5月28日 1ex. 大里郡寄居町末野

トンボ公園入口付近で午後2時頃、飛翔中の個体を採集した。

(さいとう よういち 〒132 東京都江戸川区平井5-26-12)

.....

大滝村の東大演習林でカバシヤクを採集

利根川雅実

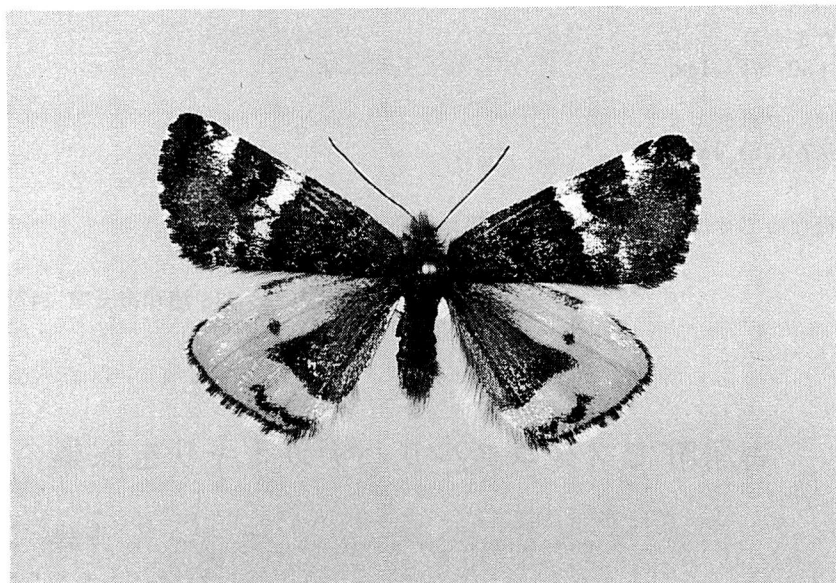
.....

1997年4月26日（土），27日（日）にかけて大滝村の東大演習林で昆虫調査を行った．埼玉県二例目のカバシヤクを採集したので報告する．

2150 カバシヤク *Archieris parthenias* (Linnaeus)

2♀:1997年4月26日 13～14時頃 大滝村矢竹沢上流(標高1100m 前後)

1♂:1997年4月27日 12時30頃 大滝村矢竹沢上流(標高1100m 前後)小堀文彦氏採集



1997年4月26日に大滝村矢竹沢上流で採集したカバシヤク *Archieris parthenias* (Linnaeus) ♀

参考文献

神部 正博（1997） 三峰山から霧藻ヶ峰の蛾類メモ 寄せ蛾記，（83）：2324

（とねがわ まさみ 〒336 浦和市三室 3471-1）

県民の森採集調査追加記録

築比地 秀夫

1992年8月～'94年10月まで秩父郡 横瀬町 県民の森で行った、蛾類を中心とした夜間調査結果については本誌82号で報告したが、同時に灯火の幕に飛来して採集した昆虫及び日中採集した昆虫（甲虫類、カメムシ類など）について報告する。

なお、1996年8月10日に採集した個体も含めた。

日中採集した個体には、種名の後に*を付けた。

甲虫類

ヤホシゴミムシ

1994. 6. 4. 1♂.

クロシデムシ

1992. 7. 4. 1♂.

ムネアカセンチコガネ

1992. 8. 2. 1♀.

1993. 7. 10. 1♂.

1993. 10. 16. 1♀.

1996. 8. 10. 2♂ 1♀.

ヒメアシナガコガネ

1994. 6. 4. 1ex.

ヒゲコメツキ

1994. 6. 4. 1♂.

フチトリツヤテントウダマシ

1992. 6. 4. 1ex.

ルリボシカミキリ*

1992. 8. 1. 1♂.

エグリトラカミキリ*

1992. 6. 20. 1♀.

ニイジマトラカミキリ*

1996. 8. 10. 1ex.

ナカジロゴマフカミキリ

1992. 8. 29. 1ex.

ヨコヤマヒゲナガカミキリ

1992. 8. 29. 1♂.

イモサルハムシ*

1992. 6. 20. 1ex.

アカガネサルハムシ*

1992. 6. 20. 1ex.

イタヤハムシ*

1992. 8. 29. 1ex.

カオジロヒゲナガゾウムシ

1992. 7. 4. 1ex.

チャイロチョッキリ*

1992. 6. 4. 1ex.

モモチョッキリ*

1994. 6. 4. 1ex.

オトシブミ*

1996. 8. 10. 1ex.

ヒゲナガオトシブミ*

1994. 6. 4. 1♂.

クリシギゾウムシ

1992. 8. 29. 1♀.

カメムシ類など

ツノアオカメムシ

1996. 8. 10. 1ex.

ハサミツノカメムシ

1994. 6. 4. 1ex.

カマキリモドキ

1994. 6. 9. 2ex.

(ついひじ ひでお 〒333 川口市前川4-13-2)

.....

4月に日高市でウスバシロチョウ

利根川雅実・星野正博

.....

日高市にある飯能日高分譲地で、最初にウスバシロチョウを見たのは、5年くらい前である。今回、久しぶりに訪れ、星野氏を案内したが、バブル崩壊後、分譲が思うように進まないのか、幸いにもウスバシロの生息環境がそのまま残されているような気がする。当日は10時頃日高市滝不動、11時頃飯能日高分譲地、13時頃所沢市堀之内と移動し、採集調査したので、目撃した蝶も含めて報告する。

今年は暖冬で桜の開花が異常に早い年であり、当日は関東一円25℃以上の夏日であった。

ウスバシロチョウ	6♂	1997.4.29	日高市横手
ツマキチョウ	目撃	1997.4.29	日高市横手, 日高市台 (滝不動), 所沢市堀之内, 入間市宮寺
キチョウ	目撃	1997.4.29	日高市横手, 日高市台 (滝不動), 入間市宮寺
ベニシジミ	目撃	1997.4.29	日高市横手, 所沢市堀之内
ルリシジミ	目撃	1997.4.29	日高市台 (滝不動)
ツバメシジミ	目撃	1997.4.29	所沢市堀之内
ムラサキシジミ	目撃	1997.4.29	日高市横手, 1ex 1997.4.29 所沢市堀之内
ウラゴマダラシジミ	1幼虫	1997.4.29	入間市宮寺
ミヤマセセリ	1♂	1997.4.29	日高市台 (滝不動)
コジャノメ	1ex	1997.4.29	日高市台 (滝不動), 1ex 1997.4.29 所沢市堀之内
ヒメウラナミジャノメ	1ex	1997.4.29	日高市台 (滝不動)
キタテハ	目撃	1997.4.29	所沢市堀之内
テングチョウ	1♂	1997.4.29	所沢市堀之内

(とねがわ まさみ 〒336 浦和市三室 3471-1)

(ほしの まさひろ 〒338 与野市下落合5-14-31)

.....

東松山市内で、ウスバシロチョウを目撃

松崎雄一

.....

筆者は、埼玉県内の分布東限と思える、東松山市内で本種を目撃しているので報告する。

東松山市上唐子都幾川畔1997.5.12. 1exを2度?目撃。最初は都幾川を渡っていく本種を目撃した。筆者は、トンボ屋の端くれなので、普通は山の溪流で見かける種類なのに、どうしてこんな所にいるのだろう位にしか思っていなかった。その個体は、やや小型であった。次に、最初に見かけた対岸の畑地で、やはりやや小型な本種を1頭目撃した。多分同一の個体だとは思いますが、近くの草むらに静止したので、とりあえず、撮影しようとしたが、運悪く再び飛び去ってしまった。どこからかの飛来種であることも十分考えられるが、珍しい目撃記録と思えるので報告しておく。なお、この発表を勧めて下さった、碓井徹氏に感謝申し上げる。

(まつざき ゆういち 〒179 練馬区田柄5-9-18-203)

.....

埼玉県蜻蛉目調査 (6) 1997年4~6月

松崎雄一

.....

1997年上半期、主に県西部で観察したトンボ類の中から、比較的個体数の少ない種の記録及び、筆者自身が新たに確認できた生息地(但し筆者以外の過去の記録のある場合も含まれる)、その他、興味深い記録について報告する。

以下の記録は、一部(羽化殻)を除き、確実な目撃記録である。

目撃記録は、() でくくって表示。

◎は、写真撮影したものを含む事を示す。

モートンイトトンボ

秩父市栃谷◎ (多数) 6.30

セスジイトトンボ

北本市蓮沼◎ (1♀) 5.12/◎ (少数) 5.18/◎ (少数) 5.25

東松山市上唐子 (1♂) 6.14

オツネントンボ

皆野町国神◎ (多数, 産卵数対) 4.26

秩父市栃谷 (数頭) 4.26*松崎幸子

ホソミオツネントンボ

秩父市栃谷◎ (5♂) 6.30

アオハダトンボ

東松山市上唐子 (1♀) 5.12/◎ (1♂2♀) 5.18/ (1♂) 6.3/ (1♂1♀) 6.5

日高市巾着田◎ (4♂8♀) 6.13

東松山市上唐子における、個体数の減少が著しい。河川利用者によるゴミの投棄(テレビで荒川の例が紹介されていたが、相当ひどかった)、ここ2年の水量の極端な減少等々による水質汚染が原因とも考えられる。水量の減少による汚染に関しては、今年の雨量で一時的に改善されると思うが。

ミヤマカワトンボ

日高市巾着田◎ (2♂2♀) 6.13

カワトンボ

鳩山町熊井◎ (1♂燈) 5.25/ (2ex透明) 6.5

日高市台 (少数燈含む) 6.13

鳩山周辺では、筆者自身、初めて燈色型を観察できた。

ムカシトンボ

越生町黒山◎ (1♂) 4.30/ (2ex) 5.6

ミヤマサナエ

東松山市上唐子◎ (1♀1羽化殻) 6.3 / (少数羽化) 6.5 / (2羽化殻) 6.14

ヤマサナエ

鳩山町熊井◎（1♂1♀）5.25/◎（5♂2♀）6.5/（1♂）6.25

越生町大亀沼◎（1♂）5.25/◎（4♂1♀）6.5/（1♂）6.25

今年は、鳩山ー越生ライン（?!）におけるアジアサナエの生息状況を明らかにするため周辺の調査を行った。鳩山町熊井では、94年に、キイロサナエ1♂を確認しているが、今年確認できたアジアサナエは、すべて本種であった。また、今年に限って言えば、越生、鳩山周辺において、ヤマサナエはかなり普通に見られた。

キイロサナエ

東松山市上唐子（未熟4ex）5.12/（2羽化殻）5.18/（1♀産卵）6.5/◎（10♂）6.14/

◎（1♀）6.25

昨今記録が多いためか、トンボ愛好家の間で、準普通種のように扱われる傾向も見受けられるが、産地が限られていることには変わりはないのである。東松山市上唐子は、現在の所、県内では唯一の確実な産地で、ここ数年比較的多産してはいるが、一方、人為的な水質汚濁が目立ち、今後のことが大いに心配される。関東地方における他の本種生息地と比べても、東松山市上唐子付近の都幾川の水質が格段に悪いという説もある。尚、今年は例年より数日早く羽化を観察できた。

ホンサナエ

東松山市上唐子◎（1♂）5.12/（3♂）5.18

コサナエ

玉川村門沢溜池（1♂）6.5

秩父市栃谷（1♂1♀）6.30

ダビドサナエ

小川町古寺◎（5♂1♀）5.2

クロサナエ

小川町古寺◎（未熟1♂）5.2

越生町黒山◎（1♂1♀）5.10

ヒメクロサナエ

越生町黒山◎（未熟1♂2♀）4.30 /◎（未熟1♀）5.6

アオサナエ

東松山市上唐子◎（1羽化殻）5.2/◎（1幼虫）5.6/◎（2♂）5.18/（1♂1♀）6.3/（1♂）6.14/

◎（1♂）6.25

オナガサナエ

東松山市上唐子◎（15羽化殻）6.14/◎（1羽化殻）6.25

コオニヤンマ

越生町大亀沼◎（2ex）6.5/（1♂1♀）6.25

日高市女影（1ex）6.13

日高市台◎（3ex）6.13

日高市巾着田（1ex）6.13

鳩山町熊井◎（1♂）6.25

秩父市栃谷（1♂）6.30

ウチワヤンマ

鳩山町熊井◎ (1♂) 6.25

クロスジギンヤンマ

秩父市栃谷◎ (殻多数) 5.23/ (5♂1♀) 6.30

オオヤマトンボ

越生町大亀沼 (1♂) 6.5

ハラビロトンボ

玉川村門沢溜池◎ (2♂) 6.5

東松山市上唐子◎ (1♂) 6.5/◎ (2♂1♀) 6.14

皆野町国神◎ (少数) 6.30

秩父市栃谷 (少数) 6.30

シオカラトンボ

東松山市上唐子 (lex) 5.2/ (lex) 5.6/ (多数) 5.12/ (多数) 5.18/ (多数) 6.3/ (多数) 6.5/
(多数) 6.14/ (多数) 6.25

日高市女影 (lex) 6.13

東松山市上唐子都幾川畔では、最近サナエトンボにかわって本種ばかりが目立つようになってきたように感じる。これも、河川の水質汚濁が原因なのだろうか？都会からキャンプに来たと思われる子供が、シオカラトンボを見て、トンボだ！と追いかけて回していたのを見て、少し複雑な気持ちになった。尤も、自分も同じくらいの年頃には、トンボだったら何でも夢中になって追いかけていたとは思いますが・・・・

シオヤトンボ

秩父市栃谷 (多数羽化) 4.26/ (1♂) 6.30

日高市女影 (1♂) 6.13

ヨツボシトンボ

皆野町大塚池◎ (2♂1♀産卵) 6.3

コフキトンボ

鳩山町熊井◎ (lex) 6.25

アキアカネ

日高市女影 (lex) 6.13

ノシメトンボ

参考記録：練馬区光が丘 (1♀) 6.16

ヒメアカネ

秩父市栃谷 (1♀) 6.30

参考文献

- 碓井徹 (1992) 日高町史自然史編調査記録集pp.80~93埼玉県入間郡日高町のトンボ類の記録
 松崎雄一 (1995) 埼玉県蜻蛉目調査 (3) 1994年4~11月寄せ蛾記 (74) 1821-1826
 喜多英人 (1997) 1996年・埼玉県内でのトンボ記録寄せ蛾記 (83) 2320-2322

(まつざき ゆういち 〒179 練馬区田柄5-9-18-203)

.....

行田市の利根川河川敷でマメハンミョウを採集

内田正吉

.....

1996年は埼玉県でマメハンミョウが比較的多く見られたようであり、浦和市（橋本,1996）と東松山市（豊田,1997）からの記録がある。

筆者は別報のように、1996年10月12日に行田市須加での自然観察会に参加した。その際に本種を採集しているので報告する。なお、標本は現在のところ筆者が保管している。

マメハンミョウ *Epicauta gorhami* MARSEUL

lex., 埼玉県行田市須加（利根川河川敷）, 12.X.1996, 内田正吉。

橋本(1996)や豊田(1997)は多数個体が見られたことを報告されているが、筆者が確認できた個体は上記1個体のみであった。たぶん10月中旬が成虫出現期の末期なのだろう。

なお、1996年にはこのほかに、7月31日に宮城県志田郡松山町須摩屋において、水田畦に本種が多発しているのを、江村薫氏とともに目撃していることを付記する。

参考文献

橋本良一(1996)マメハンミョウの記録。寄せ蛾記,(81):2206.

豊田浩二(1997)九十九川周辺のマメハンミョウについて。寄せ蛾記,(82):2258.

(うちだ まさよし 〒369-12 大里郡寄居町桜沢1505)

.....

二子山 8月の蝶

星野 正博

.....

1994年8月14日に採集会を行った際の様子はずでに縁友路地にも掲載されているが、本会の連絡誌は正規な報告文献として扱わないので記録する。

群馬県境に位置する二子山（小鹿野町）は二峰で構成されているが、当日登ったのは矢久峠から志賀坂方面に伸びる林道終点付近から東岳（1226m）で、山頂はせまく、樹高の低い雑木林となっており、少し離れたところに周囲の開けた岩峰がある。その間に採集目撃した蝶は次の通りである。

キアゲハとジャノメチョウは多数の個体が山頂部に、アオスジアゲハ・カラスアゲハ・モンキアゲハも山頂部に幾つか目撃した。なお、12:30～13:30に山頂部にいたが、最初は見かけなかったジャノメチョウが次第に個体数を増し下山する頃には交尾が見られ、活動時間があるように思った。

以下の種は山頂～林道の間

コジャノメ・ダイミョウセセリ・スジグロチャバネセセリ・キチョウ・
スジグロシロチョウ・スミナガシ

(ほしのまさひろ 338 与野市下落合5-14-31)

.....

埼玉県産蝶類の記録 (6)

中川 利勝

.....

筆者は、1993年～1995年までの埼玉県内の蝶類採集記録を整理したので報告する。以下報告する記録は、筆者自身の明確な記載のある記録（目撃記録を含む）、および現存する標本データのみを採用している。

◎ セセリチョウ科

ダイミョウセセリ	09. VII. 1994	川越市下赤坂	1ex.
	13. V. 1995	所沢市堀之内	3exs.
キマダラセセリ	05. VI. 1994	浦和市大間木	1♂(クリで吸蜜)
	02. VII. 1994	所沢市堀之内	1ex. 目撃
ギンイチモンジセセリ	04. V. 1995	浦和市南部領辻	1♂
	05. V. 1995	浦和市南部領辻	2♂♂
	05. V. 1995	浦和市南部領辻	1♂ 目撃
	05. V. 1995	浦和市大崎	1♀
	06. V. 1995	浦和市南部領辻	1ex. 目撃
	06. V. 1995	浦和市大崎	1ex. 目撃
オオチャバネセセリ	02. VII. 1994	所沢市堀之内	1♀1♂ 目撃
ミヤマチャバネセセリ	10. VII. 1993	狭山市北入曽	1♂
	15. VII. 1993	狭山市北入曽	1♂
	04. V. 1995	浦和市南部領辻	2♂♂
	05. V. 1995	浦和市南部領辻	1♂ 目撃
コチャバネセセリ	07. VIII. 1993	所沢市堀之内	1♀1♂
	13. V. 1995	所沢市堀之内	2♂♂
	16. VII. 1995	浦和市上野田	1♂

◎ アゲハチョウ科

アゲハ	15. IV. 1995	浦和市大谷口	1♂
キアゲハ	15. IV. 1995	浦和市大谷口	1♂
クロアゲハ	13. V. 1995	所沢市堀之内	1♂
ジャコウアゲハ	01. X. 1994	所沢市堀之内	15幼(餌;ウナズカ)
		⇒14蛹化 (29. III. 1995, 1♀1♂羽化)	
	16. VII. 1995	浦和市南部領辻	1♀ 目撃 中川(1996)
	22. VII. 1995	浦和市大間木	1♀ 目撃 を参照.
モンキアゲハ	07. VIII. 1993	所沢市堀之内	1♂ 目撃
	13. V. 1995	所沢市堀之内	1ex. 目撃

◎ シロチョウ科

モンシロチョウ	06. III. 1993	川口市小谷場	3♂♂ 目撃
	06. III. 1993	浦和市大谷口	1♂ 目撃
	06. III. 1993	川口市芝西	2♂♂ 目撃
	27. III. 1993	蕨市錦町	1♀2♂♂
	14. III. 1994	浦和市大間木	1♂ 目撃
	26. III. 1994	川口市小谷場	3♂♂ 目撃

	26. III. 1994	川口市柳崎	1♂ 目撃
	29. III. 1994	所沢市堀之内	1♂ 目撃
	30. III. 1994	蕨市錦町	4♂♂ 目撃
	02. IV. 1994	浦和市大谷口	1♀
	04. XII. 1994	浦和市大間木	2♀ ♀ 4♂♂ (1♂ 新鮮個体)
	04. XII. 1994	川口市安行領在家	2♂♂ (1♂ 新鮮個体)
	04. XII. 1994	川口市安行領根岸	1♂ (新鮮個体)
	07. III. 1995	浦和市大間木	1♂ 目撃
	12. III. 1995	浦和市大谷口	1♂ 目撃
	12. III. 1995	浦和市蓮見新田	1♂ 目撃
スジグロシロチョウ	27. III. 1993	川口市小谷場	1♀
	10. IV. 1994	浦和市大谷口	1♀ 2♂♂
ツマキチョウ	10. IV. 1994	浦和市大谷口	3♂♂
	10. IV. 1994	川口市小谷場	1♂
	17. IV. 1994	浦和市大谷口	1♀ 1♂
	17. IV. 1994	浦和市南部領辻	1♀ 4♂♂
	15. IV. 1995	浦和市大谷口	1♀ 6♂♂
	06. V. 1995	浦和市大崎	1♂ 目撃
モンキチョウ	09. V. 1993	北本市石戸宿	1♀
	29. III. 1994	所沢市堀之内	1♂ 目撃
	17. IV. 1994	浦和市南部領辻	4♂♂
	15. VII. 1995	浦和市南部領辻	1♂

◎ シジミチョウ科

ムラサキシジミ	03. VII. 1993	所沢市堀之内	1♀
	07. VIII. 1993	所沢市堀之内	1♀
	09. VII. 1994	所沢市堀之内	1幼(終令)5卵(飼;アラク)
アカシジミ	04. VI. 1994	所沢市堀之内	1ex.
ウラナミアカシジミ	04. VI. 1994	所沢市堀之内	1ex.
ミズイロオナガシジミ	11. VI. 1995	浦和市南部領辻	1ex. 目撃
オオミドリシジミ	04. VI. 1994	所沢市堀之内	1♂ 目撃
	02. VII. 1994	川越市下赤坂	2♀ ♀
	11. XII. 1995	狭山市北入曽	3卵(飼;コナラ)
ミドリシジミ	03. V. 1994	浦和市間宮	1幼(飼;ハノキ)
トラフシジミ	02. VII. 1994	所沢市堀之内	1ex.
ベニシジミ	27. III. 1993	蕨市錦町	1♂
	04. XII. 1994	浦和市大間木	1ex.
	15. VI. 1995	浦和市南部領辻	3♀ ♀ 2♂♂
ウラナミシジミ	02. X. 1994	浦和市南部領辻	2♂♂
ヤマトシジミ	02. IV. 1994	浦和市大谷口	1♂
	04. XII. 1994	浦和市大間木	1♂
	04. XII. 1994	川口市安行領在家	1♂
	04. V. 1995	浦和市南部領辻	3♂♂
	13. V. 1995	所沢市堀之内	1♀
ルリシジミ	27. III. 1993	蕨市錦町	1♀
	15. IV. 1995	浦和市大谷口	3♀ ♀ 4♂♂
	11. VI. 1995	浦和市南部領辻	1♂

◎ ウラギンシジミ科

ウラギンシジミ	06. III. 1993	浦和市円正寺	1♀(越冬個体)
	03. VII. 1993	所沢市堀之内	2♀♀

◎ テングチョウ科

テングチョウ	03. VII. 1993	所沢市堀之内	2♀♀目撃 (エノキへの産卵個体)
	15. VII. 1993	所沢市堀之内	1幼(飼;Iノキ)
	⇒ 30. VII. 1993		1♂(2化)飼育羽化
	07. VIII. 1993	所沢市堀之内	1♀目撃
	29. III. 1994	所沢市堀之内	2exs.(越冬個体)目撃
	04. VI. 1994	所沢市堀之内	1♀5♂♂(ワレモノ)
	02. VII. 1994	所沢市堀之内	1♂
	02. VII. 1994	所沢市堀之内	1ex. 目撃

○ テングチョウの2化個体について

上記の記載記録にもあるように、筆者は1993年、所沢市堀之内におけるテングチョウの2化個体(一部飼育による)を確認しているので、以下若干の観察記録を含め補足しておく。

1. 観察例

[配偶行動]

1993年7月3日 12:00~13:00 (晴)

食樹エノキの周囲に複数のテングチョウが集まり、樹上、追飛行動を繰り返す。♀を追飛した♂が、執拗に追い続け、地表に降りた♀を追いつく。この時♀は♂に対し、翅を閉じたまま、地表の砂利の上で「横ばい」姿勢をとった(交尾拒否行動か?)。その後、♀は再びエノキの樹上に向かって飛び立ち、♂も後を追ったが、交尾には至らなかった。

[産卵行動]

1993年7月3日 12:00~13:00 (晴)

食樹エノキの周りを飛び回っていた♀が、新芽のついた小枝にとまり、腹端を托葉の間に入れ、産卵行動をとる。同様の産卵行動をとる♀が、この他に1頭観察された。

産卵後の産みつけられた卵を捜すと、托葉の間に2卵を確認したが、さし込まれるよう産みつけられているため、産卵箇所の見当を違えると発見が難しい。産卵場所は、食樹エノキの繁みの中ではなく、外側に張り出した枝が多く、高さについては一番低いところで、筆者が地上から確認できる高さ、すなわち2m前後から産卵が行われていた。

[飼育経過など]

7月3日、第一回目の成虫♀より年内産卵が確認されたテングチョウについて、筆者はこの後、7月15日午後、再度所沢市堀之内の観察地を訪ずれ、経過を観察した。

7月3日に産卵を確認した小枝周辺を捜し(若葉は成長している)、食痕と思われる形跡のある葉を中心に幼虫を捜したところ、地上2m弱のところで葉上に静止していた1幼を発見し、飼育のため持ち帰った。

幼虫については、高密度で群棲する場合に幼虫の体色が黒化するとされる「相変異」現象が知られているが、筆者の観察した第一回目の成虫による年内産卵により孵化した幼虫については、「群棲」状況下になかったためか、体色は通常の緑色であった。

この幼虫は、筆者の室内飼育下において、7月22日、食樹エノキの葉裏で蛹化した。蛹の色は幼虫同様緑色であった。この蛹は7月30日に♂の成虫の羽化をみた。蛹期はわずか8日間であった。

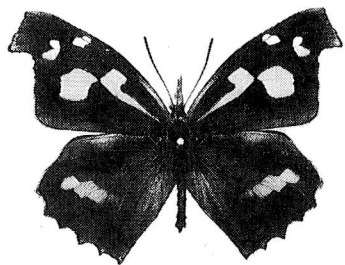


図 1

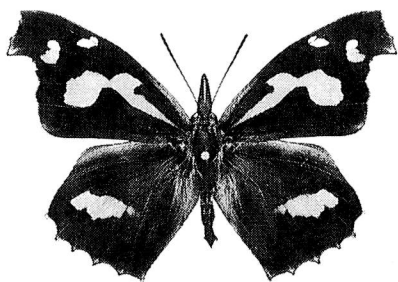


図 2

図 1
所沢市堀之内産♂
2 化個体♂

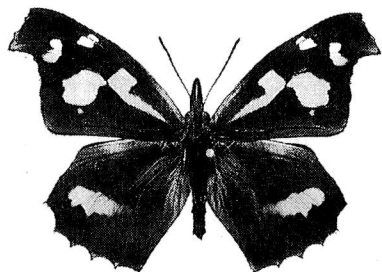


図 3

図 2
所沢市堀之内産♂
標準的な個体
(4. VI. 1994
筆者採集)

図 3
所沢市堀之内産♂
2 化の特徴を備えて
いる個体
(4. VI. 1994
筆者採集)

〔観察地余話〕

筆者の手元で2化個体が羽化した一週間後の8月7日に、再度所沢市堀之内の観察地を訪れた。この時、第一回目の成虫♀より年内産卵が確認されたエノキの周囲で、1頭だけであったがテングチョウの♀の個体を確認した。かなり新鮮な個体であり、この個体もまた、羽化まもない「2化個体」であった可能性も捨て切れない。

2. テングチョウ2化個体の斑紋について

テングチョウ2化個体の斑紋については、藤岡知夫氏は「日本産蝶類大図鑑・解説編」の中で、「本州での2化は、1化に比べ表面の橙赤色斑がやや縮小し、前翅では中室の斑紋と2、3室にまたがる斑紋との間が、切断されることがあるとの報告がある」と述べられている。

図1に示した個体は、所沢市堀之内産の2化の♂であるが、この個体は、まさしく「2化」の特徴を備えているといえる。藤岡氏はまた、前述の著書の中で、「6～7月に発生する1化の中でも変異に富み、2化の記述と同じ個体も現れるので、変異幅は重なる」とも述べておられる。

参考までに図2、3で、その変異幅を示した。図2に示した個体は「1化」の標準的な個体である。また、図3に示した個体は、1化の個体でありながらも「2化」の特徴を持ち合わせている個体である。尚、図1と同様、図2、3も所沢市堀之内産の個体である。

◎ タテハチョウ科

コミスジ	04. V. 1995	浦和市南部領辻	1♀
キタテハ	06. III. 1993	浦和市大谷口	3exs. 目撃(越冬個体)
	06. III. 1993	浦和市円正寺	1ex. 目撃(越冬個体)
アカタテハ	06. III. 1993	蕨市北町	1ex. 目撃(越冬個体)
ヒメアカタテハ	04. XII. 1994	浦和市大間木	1ex.
ルリタテハ	09. V. 1993	北本市石戸宿	2卵(餌:サトリイバラ)
		⇒ 6/2 蛹化,	6/14 1♂羽化
		6/4 蛹化,	6/15 1♂羽化
	29. III. 1994	所沢市堀之内	1ex. 目撃(越冬個体)
ヒオドシチョウ	29. III. 1994	所沢市堀之内	1ex. 目撃(越冬個体)
	04. VI. 1994	所沢市堀之内	2exs. 目撃
ゴマダラチョウ	07. VII. 1993	所沢市堀之内	1♀
	04. VI. 1994	所沢市堀之内	1♀

◎ ジャノメチョウ科

ヒメウラナミジャノメ	09. V. 1993	北本市石戸宿	3♀ 1♂
ヒメジャノメ	28. V. 1995	浦和市南部領辻	1♀ 1♂
ジャノメチョウ	15. VII. 1993	狭山市北入曽	3♂♂
	07. VII. 1993	所沢市堀之内	1♀

〔引用文献〕

- 藤岡知夫(1981) 改訂増補 日本産蝶類大図鑑・解説編; 172-173.
 福田晴夫他共著(1983) 原色日本蝶類生態図鑑(II); 281-289.
 中川利勝(1995) 埼玉県のテングチョウの2化個体について
 昆虫と自然 30(9); 33-35.
 ———(1996) 浦和市東部地域のジャコウアゲハ
 1995年7月の目撃2例によせて 寄せ蛾記(78); 2081

.....

林辰彦氏採集の埼玉県産クワガタムシの記録

長畑直和

.....

林辰彦氏は県内在住の若手クワガタ屋で、月刊むしのクワガタギネスにも記録保持者として名を連ねている。今回、埼玉県昆虫誌作成のための基礎資料として県内で採集したクワガタムシの記録の発表を依頼したところ、快く以下の記録を教示して頂けたのでここに報告する。特に断りのないものは林氏自身の採集である。

1 *Lucanus maculifemoratus* Motschulsky ミヤマクワガタ

5♂3♀, 比企郡小川町官倉山, 6.VIII.1993

5♂1♀, 比企郡東秩父村大霧山, 26.VII.1994

7♂2♀, 比企郡小川町官倉山, 1.VIII.1994

2 *Macrodercas rectus* (Motschulsky) コクワガタ

1♂, 埼玉県幸手市下川崎, 12.VI.1992 (50.2mm) ; 他多数

3 *Macrodercas striatipennis* Motschulsky スジクワガタ

3♂1♀, 比企郡小川町官倉山, 6.VIII.1993

4♂3♀, 比企郡東秩父村大霧山, 26.VII.1994

2♂3♀, 比企郡小川町官倉山, 1.VIII.1994

4 *Prosopocoilus inclinatus* (Motschulsky) ノコギリクワガタ

1♂, 埼玉県幸手市下川崎, 8.VII.1993 (70.5mm) ; 他多数

5 *Serrognathus platymelus* (Snellen van Vollenhoven) ヒラタクワガタ

1♂, 埼玉県北葛飾郡栗橋町, 20.VI.1994(56mm)

1♂, 埼玉県北葛飾郡栗橋町, 28.V.1995 (48mm)

2♂, 埼玉県川越市三芳野, 25.VII.1994 (採集者不詳)

1♀, 埼玉県川越市三芳野, 30.VII.1994 (採集者不詳)

最後に、貴重な記録を教示して頂いた林辰彦氏にお礼申し上げます。

(ながはた なおかず 〒362上尾市原市11-3越川グリーンハイツ5号)

埼玉県昆虫誌Ⅱ (双翅目) の記事の一部訂正

玉木 長寿

埼玉県昆虫誌Ⅱ (双翅目) の記事の一部を、下記の通り訂正します。訂正箇所は更に発見される可能性があります、取り敢えずここに報告して置きます。

1997年10月

1～250頁 (本文)

訂正箇所	内容
・ 003頁 24行目	誤：コブアリノスブ 正：コブアリノス <u>ア</u> ブ (挿入)
・ 004頁 表1 中央やや下	誤：BRACHYCE <u>E</u> RA (削除) 正：BRACHYC <u>E</u> RA
・ 030頁 下から4行と3行の間	誤：族名記入なし 正：Boreoheptag <u>y</u> ini (族名挿入)
・ 030頁 下から3行目	誤： 8. <u>Heptag</u> via brevitar <u>s</u> is (削除) 正： 8. <u>Boreoheptag</u> via brevitar <u>s</u> is (挿入)
・ 103頁 1行目	誤：108. <u>Eristal</u> inus (<u>Eoseristal</u> is) cerealis (削除) 正：108. <u>Eristal</u> is (<u>Eoseristal</u> is) cerealis
・ 103頁 19行目	誤：109. <u>Eristal</u> inus (<u>Eoseristal</u> is) distincta (削除) 正：109. <u>Eristal</u> is (<u>Eoseristal</u> is) distincta
・ 103頁 24行目	誤：110. <u>Eristal</u> inus (<u>Eoseristal</u> is) kyokoa <u>e</u> (削除) 正：110. <u>Eristal</u> is (<u>Eoseristal</u> is) kyokoa <u>e</u>
・ 129頁 下から2行目	誤：標本 正：標本 <u>を</u> (挿入)
・ 153頁 27行目	誤：上記の諸特徴からみて、新北区から、1種 正：上記の諸特徴からみて、旧北区(<u>エジプト</u>)、東洋区(<u>台湾</u>)から各1種と、新北区から、1種 (挿入)
・ 153頁 31行目	誤：日本初記録の属 (削除) 正：旧北区初記録の1 sp. (= ? <u>agromyz</u> ina HENDEL) (挿入)

・ 202頁 15行目	誤 : ホザワニクバエ 正 : ホウザワニクバエ (挿入)
・ 206頁 31行目	誤 : 49. <i>Sarcorohdendorfia aurata</i> (WALKER,1861) 正 : 49. <i>Sarcorohdendorfia mimobasalis</i> (MA,1964)
・ 206頁 37行目	誤 : 50. <i>Sarcorohdendorfia inextricata</i> (BATCHER,1913) 正 : 50. <i>Sarcorohdendorfia antilope</i> (BOTTHER,1913)
・ 207頁 31行目	誤 : 1 ♀, 1989.15.20 正 : 1 ♀, 1989.10.20
・ 208頁 27行目	誤 : Hoshi-Gunmma (削除) 正 : Hoshi-Gunma
・ 209頁 10行目～11行目	誤 : 1. <i>Bessa parallera</i> (MEIGEN,1824) (← <i>Bessa parallera</i> MEIGEN 正 : 1. <i>Bessa parallela</i> (MEIGEN,1824) (← <i>Bessa parallela</i> MEIGEN
・ 212頁 12行目	誤 : 23. <i>Neophris psychidis</i> TOWNSEND,1916 正 : 23. <i>Neophryxe psychidis</i> TOWNSEND,1916
・ 235頁 31行目	誤 : katapimeron 正 : katepimeron
・ 240頁 25行目	誤 : 230. <i>Hamaxia incogruua</i> (削除) 正 : 230. <i>Hamaxia incongrua</i> (挿入)
・ 241頁 1行目	誤 : 前胸背板 正 : 前胸腹板

251～405頁 (種名リスト・付図・文献目録・索引)

訂正箇所	誤	正
種名リスト		<u>Boreoheptagyini</u> (族名挿入)
・ 257頁 20・21行の間	族名記入なし	8. <i>Boreoheptagyia brevitaris</i>
・ 257頁 21行目	8. <i>Heptagyia brevitaris</i>	108. <i>Eristalis (Eoseristalis)</i>

・ 273頁 12行目	108. <i>Eristalinus</i> (<i>Eoseristalis</i>)	109. <i>Eristalis</i> (<i>Eoseristalis</i>)
・ 273頁 13行目	109. <i>Eristalinus</i> (<i>Eoseristalis</i>)	110. <i>Eristalis</i> (<i>Eoseristalis</i>)
・ 273頁 14行目	110. <i>Eristalinus</i> (<i>Eoseristalis</i>)	ホウザワニクバエ
・ 295頁 7行目	ホザワニクバエ	49. <i>Sarcorohdendorfia</i>
・ 295頁 35行目	49. <i>Sarcorohdendorfia</i>	<u><i>mimobasalis</i></u> (MA,1964)
	<u><i>aurata</i></u> (WALKER,1861)	50. <i>Sarcorohdendorfia antilope</i>
・ 295頁 36行目	50. <i>Sarcorohdendorfia inextricata</i>	(BOTTHNER,1913)
	(BATTCHER,1913)	1. <i>Bessa parallela</i>
・ 296頁 7行目	1. <i>Bessa parallela</i>	23. <i>Neophryxe psychidis</i>
・ 296頁 29行目	23. <i>Neophrix psychidis</i>	230. <i>Hamaxia incongrua</i>
・ 230頁 33行目	230. <i>Hamaxia incogruua</i>	
付図		32. <i>Eristalis</i>
・ 315頁 写真図版	31. <i>Eristalinus</i>	32. <i>Eristalis</i>
・ 315頁 写真図版	32. <i>Eristalinus</i>	59. <i>Pherbina</i> sp.
・ 325頁 写真図版	59. <i>Limnia</i> sp.	60. <i>Limnia</i> sp.
・ 325頁 写真図版	60. <i>Pherbina</i> sp.	68. <i>Trypetisoma</i>
・ 327頁 写真図版	68. <i>Trypetysoma</i>	
文献目録		<i>Palaearktischen</i>
・ 348頁[148]2行目	<i>Paraearktischen</i>	<i>Cythereinae</i> (ローマンへ)
・ 349頁[159]1行目	<i>Cythereinae</i> (イタリックを)	VILLENEUVE
・ 368頁[545]1行目	VILLENEUVE	124figs.,
・ 376頁[691]2行目	12figs.,	
索引		<i>Bessa parallela</i>
・ 378頁 左 45行目	<i>Bessa parallela</i>	<i>Boreoheptagyia brevitarsis</i>
・ 378頁 右 27・28行	記入なし	<i>Boreoheptagyini</i> --- 30
の間	記入なし	<i>Eristalis</i> (<i>Eoserist</i> ----- 30
・ 382頁 右 49行目	<i>Eristalinus</i> (<i>Eoseristalis</i>) <i>cerealis</i>	<i>alis</i>) <i>cerealis</i>
・ 382頁 右 50行目	<i>Eristalinus</i> (<i>Eoseristalis</i>) <i>distincta</i>	<i>Eristalis</i> (<i>Eoseristalis</i>) <i>distincta</i>
・ 382頁 右 51行目	<i>Eristalinus</i> (<i>Eoseristalis</i>) <i>kyokoe</i>	<i>Eristalis</i> (<i>Eoseristalis</i>) <i>kyokoe</i>
・ 384頁 左 25行目	<i>Hamaxia incogruua</i>	<i>Hamaxia incongrua</i>
・ 387頁 右 31行目	<i>Neophrix psychidis</i>	<i>Neophryxe psychidis</i>
・ 391頁 右 18行目	<i>Sarcorohdendorfia aurata</i>	<i>Sarcorohdendorfia mimobasalis</i>
・ 391頁 右 19行目	<i>Sarcorohdendorfia inextricata</i>	<i>Sarcorohdendorfia antilope</i>
・ 403頁 右 1行目	ホザワニクバエ	ホウザワニクバエ

訂正板:「寄せ蛾記」84号(1997年11月)の2387~2388頁[埼玉県昆虫誌II(双翅類)記事の一部訂正]の後半の正の部分が1行繰り上がりで印刷されてしまいました。
ここに、一部訂正の訂正を添付しましたので、よろしくお願いいたします。

埼玉県昆虫誌II(双翅類)251~405頁(種名リスト・付図・文献目録・索引)正誤表

訂正箇所	誤	正
種名リスト		
・257頁 20・21行の間	族名記入なし	<u>Boreoheptagyini</u> (族名挿入)
・257頁 21行目	8. <u>Heptagyia brevitaris</u>	8. <u>Boreoheptagyia brevitaris</u>
・273頁 12行目	108. <u>Eristalinus</u> (<u>Eoseristalis</u>)	108. <u>Eristalis</u> (<u>Eoseristalis</u>)
・273頁 13行目	109. <u>Eristalinus</u> (<u>Eoseristalis</u>)	109. <u>Eristalis</u> (<u>Eoseristalis</u>)
・273頁 14行目	110. <u>Eristalinus</u> (<u>Eoseristalis</u>)	110. <u>Eristalis</u> (<u>Eoseristalis</u>)
・295頁 7行目	ホザワニクバエ	ホウザワニクバエ
・295頁 35行目	49. <u>Sarcorohdendorfia</u> <u>aurata</u> (WALKER,1861)	49. <u>Sarcorohdendorfia</u> <u>mimobasalis</u> (MA,1964)
・295頁 36行目	50. <u>Sarcorohdendorfia inextricata</u> (BATTCHER,1913)	50. <u>Sarcorohdendorfia antilope</u> (BOTTHER,1913)
・296頁 7行目	1. <u>Bessa parallera</u>	1. <u>Bessa parallela</u>
・296頁 29行目	23. <u>Neophrix psychidis</u>	23. <u>Neophryxe psychidis</u>
・230頁 33行目	230. <u>Hamaxia incogruua</u>	230. <u>Hamaxia incongrua</u>
付図		
・315頁 写真図版	31. <u>Eristalinus</u>	32. <u>Eristalis</u>
・315頁 写真図版	32. <u>Eristalinus</u>	32. <u>Eristalis</u>
・325頁 写真図版	59. <u>Limnia</u> sp.	59. <u>Pherbina</u> sp.
・325頁 写真図版	60. <u>Pherbina</u> sp.	60. <u>Limnia</u> sp.
・327頁 写真図版	68. <u>Trypetysoma</u>	68. <u>Trypetisoma</u>
文献目録		
・348頁[148]2行目	<u>Paraearktischen</u>	<u>Palaearktischen</u>
・349頁[159]1行目	<u>Cythereinae</u> (イタリックを)	<u>Cythereinae</u> (ローマンへ)
・368頁[545]1行目	VILLENEUVE	VILLENEUVE
・376頁[691]2行目	12figs.,	124figs.,
索引		
・378頁 左 45行目	<u>Bessa parallera</u>	<u>Bessa parallela</u>
・378頁 右 27・28行の間	記入なし 記入なし	<u>Boreoheptagyia brevitaris</u> ---30 <u>Boreoheptagyini</u> -----30
・382頁 右 49行目	<u>Eristalinus</u> (<u>Eoseristalis</u>) <u>cerealis</u>	<u>Eristalis</u> (<u>Eoseristalis</u>) <u>cerealis</u>
・382頁 右 50行目	<u>Eristalinus</u> (<u>Eoseristalis</u>) <u>distincta</u>	<u>Eristalis</u> (<u>Eoseristalis</u>) <u>distincta</u>
・382頁 右 51行目	<u>Eristalinus</u> (<u>Eoseristalis</u>) <u>kyokoae</u>	<u>Eristalis</u> (<u>Eoseristalis</u>) <u>kyokoae</u>
・384頁 左 25行目	<u>Hamaxia incogruua</u>	<u>Hamaxia incongrua</u>
・387頁 右 31行目	<u>Neophrix psychidis</u>	<u>Neophryxe psychidis</u>
・391頁 右 18行目	<u>Sarcorohdendorfia aurata</u>	<u>Sarcorohdendorfia mimobasalis</u>
・391頁 右 19行目	<u>Sarcorohdendorfia inextricata</u>	<u>Sarcorohdendorfia antilope</u>
・403頁 右 1行目	ホザワニクバエ	ホウザワニクバエ

(たまき ながひさ 〒350-04 埼玉県入間郡毛呂山町前久保 332-122)

寄せ蛾記84号 目次

牧 林 功：「日本の音風景100選」選外の虫の声の聞きどころ・・・	2348
田中 雅照：朝霞市内でウスイロコノマチョウを採集・・・	2352
塘 久 夫：身近に見られる東洋熱帯の蝶（1）マレーシア・・・	2353
塘 久 夫：身近に見られる東洋熱帯の蝶（2）タイ・・・	2360
鈴木 幸：埼玉県東部におけるトンボ類の記録・・・	2367
利根川雅実：4月に入間市でハンミョウを採集・・・	2368
柴田 直之：ヒメツユムシ亜科の採集記録・・・	2369
利根川雅実：高層住宅で夜間採集したカミキリムシ・・・	2371
斉藤 洋一：寄居町でフタコブルリハナカミキリを採集・・・	2372
利根川雅実：大滝村の東大演習林でカバシヤクを採集・・・	2373
築比地秀夫：県民の森採集調査追加記録・・・	2374
利根川雅実・星野正博：4月に日高市でウスバシロチョウ・・・	2375
松崎 雄一：東松山市内で、ウスバシロチョウを目撃・・・	2375
松崎 雄一：埼玉県蜻蛉目調査（6）1997年4～6月・・・	2376
内田 正吉：行田市の利根川河川敷でマメハンミョウを採集・・・	2379
星野 正博：二子山 8月の蝶・・・	2379
中川 利勝：埼玉県産蝶類の記録（6）・・・	2380
長畑 直和：林辰彦氏採集の埼玉県産クワガタムシの記録・・・	2385
玉木 長寿：埼玉県昆虫誌Ⅱ（双翅類）の記事の一部訂正・・・	2386
正誤表・・・	2289
会報・編集後記・・・	2289

（埼玉昆虫談話会 1997年11月 1日，42pp）